

建 築 学 部

セメスター制と学期について（学則第11条，12条参照）

大学の1年間は，4月1日に始まり翌年の3月31日に終わります。

本学では，最初の半年を前期，残りの半年を後期に分け，学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる「セメスター制」を採用しています。各科目の授業は1セメスター15週にわたる期間内で終わります。

学生の皆さんは，各学期の始めに履修登録を行い，授業を受講し，各学期の終わりに試験を受けて，試験に合格すれば単位が取得できます。不合格であった場合は，次のセメスターか，翌年度以降に再度履修登録を行い，同じ授業を再び受講することができます。（これを「再履修」といいます。）

各学年・学期とセメスターの関係は下表の通りです。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

単位制と授業時間について（学則第10条参照）

本学では，「単位制」を採用しています。

単位制とは，各授業科目ごとに一定の基準による単位数が決められていて，その授業科目を所定の時間履修し，試験に合格するとその授業科目に決められている単位が取得できる，という制度です。修業年限中に卒業に必要な単位数を修得すれば卒業することができます。

1単位の授業科目は，45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。

本学における授業科目の単位数算定基準は，講義や演習，実習など，授業の方法に応じ，授業時間外に必要な学習時間を考慮して，学則第10条に定められています。

具体的には，本学では，1講時90分の授業が半期15週行われます。単位数は，90分の授業時間を2時間相当の学習時間とみなし，予習・復習の自習時間もあわせた時間で設定しています。

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため，概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「みなしの自習時間」が必要となります。

予習・復習等の自習に要する標準時間は，シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習時間（予習・復習）」欄に記載してありますので，各授業科目の教員の指導に沿い，必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数	+	自習時間数	週当り自習時間数
講義	2単位（90時間）	1コマ/週（計30時間）	+	60時間/15週	4時間
演習・実習	1単位（45時間）	1コマ/週（計30時間）	+	15時間/15週	1時間

シラバスにおける学習時間は以下のとおりと致します。

授業形態	単位数	週授業時間数	自習時間数	1回(週)当り学習時間
講義	2単位（90時間）	1コマ/週（計30時間）	60時間	4（時間）
演習・実習	1単位（45時間）	1コマ/週（計30時間）	15時間	1（時間）
演習・実習	2単位（90時間）	2コマ/週（計60時間）	30時間	2（時間）

単位数と学修時間

演習・実習	3単位 (135時間)	3コマ/週 (計90時間)	45時間	3 (時間)
講義及び演習	3単位 (135時間)	2コマ/週 (計60時間)	75時間	5 (時間)

授業時間帯

なお、本学における各時限（1コマ=90分）の授業時間帯は、以下の通りです。

講 時	授業時間
1 講時	8：50～10：20
2 講時	10：30～12：00
3 講時	13：00～14：30
4 講時	14：40～16：10
5 講時	16：30～18：00

※ただし、期末試験や集中講義、補講、補習等については、上記と異なる時間帯で実施する場合があります。

授業科目の区分

教養教育科目

授業科目は、その内容によって、「教養教育科目」と「専門教育科目」の二つに分けられます。

「教養教育科目」は、「幅広い知識と豊かな人間性を持つ人材の養成」という教育目標の達成のために設けられた科目です。

専門教育科目

「専門教育科目」は、各学科の専門の学芸を修得するためのものです。それぞれの学科が独自に設ける科目ですが、複数学科にわたり共通の科目もいくつかあります。

教職科目

この他に、教育職員免許状取得のための「教職科目」があります。教職免許の取得を希望する学生は、専門学科の教育課程に加えて、教職科目の修得が必要です。

教職科目の詳細については、本学生便覧195ページ以降を参照してください。

「教養教育科目」「専門教育科目」のそれぞれに、必修科目と選択科目があります。

必修科目

「必修科目」は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位を修得しないと、卒業することができません。

選択科目

「選択科目」は、自分の興味や必要性に応じて選択することが可能な科目です。

これを計画的に組み合わせて、卒業に必要な単位数を揃えるようにします。

各授業科目は、科目の内容および教育目標に応じて、効果的に学習できる学年・学期に配当されています。それぞれの科目の開講時期は、本学生便覧中の、各学科の教育課程表に記載されています。

進級・卒業条件

学生諸君は、必修・選択の指定、卒業に必要な単位数、進級に必要な単位数を考慮し、履修ガイダンスを参考にして、計画的に科目履修を進めてください。卒業に要する最低修得単位数は、履修ガイダンスに記載されています。

2年次から3年次、3年次から4年次にそれぞれ進級するための条件は学科毎に定められており、条件を満たしていない学生は進級することができません。この進級条件も本学生便覧中の履修ガイダンスに掲載されています。

履修できる授業科目

先取り履修 特別進級

1. 履修科目は所属学部・学科の教育課程表から選びます。
他学科の同名の科目を履修して所属学部・学科の科目に振替えることは原則としてできません。ただし、再履修の場合、他学科で履修できる科目もあります。
また、専門教育科目中、「他学科開講科目群」として指定されている科目は、所属学科以外の学科において開設されている科目であっても、所属する学科が特に履修することが望ましいと考えて教育課程表に加えた科目なので、履修することができます。ただし受講人数を制限する場合があります。
1年生は、所属学科の自分のクラスで開講されているものから優先的に履修してください。
2. 自分より上級学年の科目を履修することはできません。
ただし、2年次に留年した学生に限り、3年次の開講科目の履修を認めることがあります（これを「先取り履修」といいます）。先取り履修によって修得した3年生の科目の単位は、3年次への進級条件の単位数には加算できません。しかしながら、3年次への進級条件を充足し、かつ先取り履修により4年次への進級条件をも満たした場合には、2年次から4年次へ進級することができます。（これを「特別進級」といいます）なお、先取り履修の履修登録方法については、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に問合せしてください。

再履修

3. 1つの時間帯には1科目だけ履修登録することができ、同時に2科目を履修することはできません。
時間割上で同一時間帯に同一学年の科目が2科目以上ある場合（これを並列開講科目といいます）、そのうち1科目だけを選択して履修します。ただし、選択しなかった方の科目を次年度以降に履修することは可能です。
4. 一度単位を修得した科目を再び履修することはできません。
また、カリキュラムが変更になった場合、旧科目名ですでに修得済みの科目は、新しい科目名で再び履修することはできません。
5. 「物理基礎」「数学基礎」等の専門科目は、その学科ごとに授業内容が異なりますので、所属する学科以外の授業は履修できません。
6. 一度不合格となった科目を再履修する場合は、
 - (1) 各セメスターで再履修クラスが開講されている場合は、再履修クラスで履修してください。
 - (2) 受講しようとするセメスターに再履修クラスが開講されていない場合は、正規の時間割で履修することが原則です。
 - (3) 上記が不可能な場合は、所属学科の他のクラスで履修することもできます。
 - (4) 教養教育科目の場合は、他学部や他学科で履修することもできます。ただし、同一科目名であっても学部ごとに内容が異なる科目の場合は、所属する学部以外の授業は履修できません。
 - (5) 英語科目の再履修については、166ページを参照してください。

再履修科目と自分の学年の科目が同じ時間帯に重なる場合は、必修科目が優先です。必修科目同士が重なる場合は、低学年の必修科目が優先となります。ただし、実験など、その学年で修得する必要がある科目については、そちらを優先します。

上記(1)～(4)の方法で再履修が不可能な場合、科目担当教員の個別の指導の下に再履修を許可する場合があります（「特別再履修」という）が、すべての科目でこれを行うわけではないので、教務委員、科目担当教員に相談してください。

履修登録の手続きについて（学則第 13, 14 条参照）

履修登録

大学では、同じ学科の学生であっても全員が同じ科目を受けるわけではなく、各自が選択した科目を履修しますので、学生ごとに履修科目が異なります。

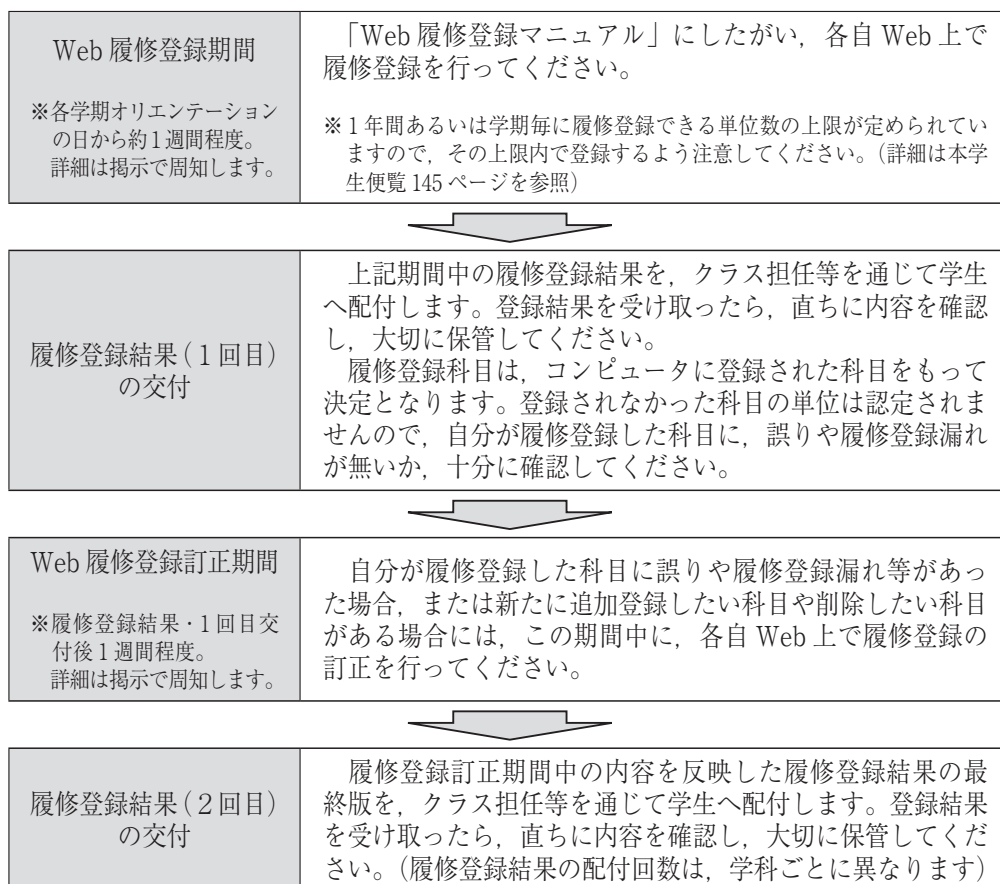
学生は、毎セメスターの始めに、そのセメスターに履修しようとする授業科目を必ず届け出なければなりません。これを「履修登録」といいます。履修登録をしていない科目については、試験を受けることができませんので、単位を修得することができません。

本学では、履修科目の登録はWeb上で行います。これを「Web履修登録」といいます。

各学期の履修登録の流れは次表の通りですので、必ず指定された期間内に各自Web上で履修登録を行ってください。（Web履修登録期間およびWeb履修登録訂正期間については、別途ポータルサイト等でお知らせします。）

Web履修登録の方法等の詳細については、ポータルサイトに公開されている「Web履修登録マニュアル」を参照してください。

履修登録の流れ



なお、指定された期間内に履修登録ができない場合には、必ず事前に八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室へ相談してください。

履修科目の変更

履修登録訂正期間が終了した後に、やむをえず履修科目の変更（追加履修登録や履修取り消し）を希望する場合は、授業担当教員の許可を得て、『履修変更願』を八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に提出してください。

ただし、『履修変更願』を提出できる期間は限られています。詳しくはポータルサイト等により周知します。

特別な届出の必要な科目

以下のような科目は、通常のWeb履修登録での登録ができませんので、履修登録訂正期間最終日までに、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室で既定の届出

<p>ポータルサイト</p>	<p>用紙を受領し履修登録してください。</p> <p>(1) 他学科開講科目・他学部教養科目 他学科開講科目または他学部教養科目の履修を希望する場合は、それぞれ所定用紙（「他学科開講科目群履修届」・「他学部教養科目履修届」）に必要事項を記入し、所属学科教務委員の許可、および科目担当教員の許可を得た上で、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に提出してください。</p> <p>なお、他学科開講科目で修得した単位は、「他学科開講科目群」（専門教育科目）の単位として認定され、他学部教養科目で修得した単位は、「他大学等教養科目群」（教養教育科目）の単位として認定されます。</p> <p>ただし、進級・卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、所属学科の教育課程表を参照してください。</p> <p>(2) 特別再履修科目 科目担当教員の個別の指導の下に特別に再履修を受けること（特別再履修）を希望する場合は、所定用紙（「特別再履修許可願」）に必要事項を記入し、科目担当教員の許可を得た上で、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に提出してください。</p> <p>(3) 他大学開講科目 他大学で開講される科目の履修を希望する場合は、本学での審査および受け入れ大学・学部での審査がありますので、他の科目よりも早い時期に申込みをする必要があります。申込方法、申込期限、修得単位の取扱い等の詳細については、本学生便覧170ページを参照してください。</p> <p>(4) その他 Web上で登録できない科目については、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室で登録方法を確認してください。</p> <p>授業時間割の変更や教室変更など、大学からの連絡事項は、臨時のものを除き、ポータルサイトで行いますので、毎日必ずポータルサイトを見る習慣をつけてください。見落としたために何らかの不利益が生じたとしても、その責任は自分自身が負わなければなりません。</p> <p>なお、休講・補講・教室変更等の情報については、ポータルサイトでのお知らせとなります。</p>
<h2>CAP 制について</h2>	
<p>CAP 制の目的</p> <p>履修登録 上限単位数</p> <p>CAP 制対象外の科目</p>	<p>平成22年度入学生から、履修登録することのできる単位数に上限が定められています（これを「CAP 制」といいます）。大学での学修には、講義などの授業時間だけでなく、空き時間や自宅で、1回の授業あたり2時間の予習・復習が求められるため、時間割に余裕を持って履修し理解を十分に深めることを目的としています。</p> <p>履修登録することのできる上限単位数は、以下の通り設定されていますので、その単位数を超えないよう十分注意して計画的に履修登録を行ってください。</p> <p>「1 Semester 毎」に履修登録することのできる単位数の上限は、「24単位」です。万が一、上限を超えて履修登録してしまった場合には、強制的に履修削除されることがあります。</p> <p>以下の科目の単位数は、履修登録上限単位数には含めません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職科目（ただし、教職免許取得に必要な科目のうち、進級及び卒業に要する単位に算入される科目は、履修登録上限単位数に含めます。） ・特別課外活動（教養教育科目・専門教育科目） ・高大連携特別講座として単位認定申請した科目

履修登録単位数 上限の緩和	<p>前セメスターの成績がGPA2.6以上で、かつ15単位以上取得した学生は、web履修登録期間中に所定の書式にて八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に申請の上、認められれば当該セメスターの履修上限単位（24単位）を超えて2単位まで追加履修登録できます。</p> <p>なお、休学していた場合は、休学する直前のセメスターの成績を対象として判定します。</p>
------------------	---

授業への出席について

教室	<p>各自が履修する科目の授業に出席します。</p> <p>授業の行われる教室の教室番号は時間割表に掲載されています。教室や開講時間が変更になる場合はポータルサイト等で周知します。集中講義など、通常的时间割表に載らないものについてもポータルサイト等で周知します。</p>				
出席登録	<p>授業開始前に教室の入口内側にあるカード読取装置に学生証をかざして出席登録をしてください。なお、学生証忘れやカード読取装置の不具合などでかざすことができない場合は、教室に備え付けられている出席届に記入し授業終了後に担当教員の承認を受け、八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室まで提出してください。</p>				
補講	<p>授業が予定した学習範囲に達しなかった場合や、休講があった場合は、補講が行われます。学年暦で補講日が設けられていますが、通常の週の空き時間に補講を行う場合もあります。どちらの場合も時間と教室はポータルサイトで周知します。</p>				
欠席の限度	<p>それぞれの科目について、総授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、試験を受けることができないので、単位を取得することができません（学則第14条参照）。</p>				
特別指導願	<p>別表の事由により授業を欠席する場合は、特別指導願を提出することができます。特別指導とは、別表の事由により授業を欠席した場合、その授業担当教員から指示された相当学修を完了すれば欠席として扱われないというものです。願出は事前に、あるいは欠席後7日以内に添付書類とともに八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室に提出してください。なお、7日以内に提出が困難な場合は事前に電話等で連絡してください。認められた場合は、速やかに担当教員へ連絡をし、2週間以内に相当学修の指示を受け実施してください。但し、相当学修を完了しない場合は、欠席として扱われますので注意してください。</p>				
長期欠席届	<p>病気や怪我で1ヶ月～3ヶ月の長期にわたって欠席する場合は、医師の診断書を添えて長期欠席届を提出することができます。なお、長期欠席期間中の授業科目出席状況の取扱いについては、学科教務委員ならびに授業担当教員と別途相談してください。</p>				
休学	<p>病気・怪我またはやむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、休学を願うことができますが、休学期間は在学年数に算入しないので4年間で卒業することはできなくなります。また、休学中は下表の休学在籍料を納入しなければなりません。</p> <p>休学在籍料（月額 10,000 円）</p> <table border="1" data-bbox="427 1854 922 1955"> <tr> <td>通年休学の場合</td> <td>120,000 円</td> </tr> <tr> <td>半期休学の場合</td> <td>60,000 円</td> </tr> </table>	通年休学の場合	120,000 円	半期休学の場合	60,000 円
通年休学の場合	120,000 円				
半期休学の場合	60,000 円				

○別表【特別指導願を使用することができる主な授業欠席の事由】

感染症	種類	出席停止の基準	
第一種	エボラ出血熱，クリミア・コンゴ出血熱，痘 そう，南米出血熱，ペスト，マールブルグ病， ラッサ熱，ポリオ，ジフテリア，重症急性呼 吸器症候群，鳥インフルエンザ（H5N1） ※上記の他，新型インフルエンザ等感染症 ＜指定感染症及び新感染症＞	治癒したと医師が認めるまで	
	第二種	インフルエンザ ※新型含む（鳥インフル エンザ除く）	発症した後5日を経過し，かつ，解熱した 後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで，または5日間の 適正な抗菌性物質製剤による治療が終了す るまで	
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで	
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで	
	風疹	発疹が消失するまで	
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺，顎下腺または舌下腺の腫脹が発現 した後5日を経過し，かつ全身状態が良好 になるまで	
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで	
	結核	病状により学校医その他医師において感染 のおそれがないと認めるまで	
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他医師において感染 のおそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ，腸チフス・パラチフス，腸管出血 性大腸菌感染症，細菌性赤痢，流行性結膜 炎，急性出血性結膜炎その他感染症	病状により学校医その他医師において感染 のおそれがないと認めるまで	
	（条件により出席停止の措置が考えられる疾患） 溶連菌感染症，ウイルス性肝炎，手足口病， 伝染性紅斑（リンゴ病），ヘルパンギーナ， 感染性胃腸炎，マイコプラズマ感染症	全身症状が悪いなど，医師の判断で出席停 止を要する場合など	
【添付書類】 病名の特定できる薬の処方箋または医師の診断書等，但し一週間以上の欠席は出席停止期間を明記した医師の診断書を要する			
忌 引	3親等内の葬儀への参列（日数は，1親等の場合は7日以内，2親等及び3親等の場合は3日以内とする）		
公共交通機関の運行停止	使用する公共交通機関の運休および遅延によるもの		
教育実習	4年次「教育実習」によるもの（一日体験実習，「教職実践演習」に伴う学校現場見学は除く）		
課外活動	■承認条件（①及び②-1もしくは②-2を満たすこと） ①学友会所属クラブ・サークルの活動に伴う大会等への参加であること ②-1 全国及び都道府県規模以上の連盟や協会が主催する大会・行事であること ②-2 上記以外の大会・行事の場合は，東北地方大会以上の参加規模であること ※また大会・行事参加前にクラブ・サークル毎に「学外活動届」（大会要項，参加者名簿添付）を提出していることを条件とする。参加者名簿に記載のない者の届出は認めない。 ■学生自主企画助成金に採択された活動		
就職活動	■就職試験等によるもの（受験票等を持参のうえ八木山キャンパスキャリアサポート課もしくは長町キャンパス事務室の証明を受けること） ■インターンシップ（事前にインターンシップ実施内容を確認できる書類及び終了後レポートを持参のうえ，学科長もしくは就職委員，就職支援委員から証明を受けること）		
国際交流	国際交流委員会で承認した活動		
学会発表	自身の学会発表によるもの		

※不明な点は，八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室まで問合せください。

試験について（学則第14条参照）

試験に関する要綱

（趣旨）

1. 東北工業大学の試験に関する必要な事項については、学則第14条の規定に基づくほか、別に定める「受験者心得」及びこの要綱の定めるところによります。

（試験区分）

2. 試験には、各学期末（授業期間中）に行う試験の他に、定期試験、追試験、再試験及びその他試験があります。

(1) 定期試験とは、前期及び後期の授業期間終了後の定められた期間に行う試験です。なお、各学期末の授業中に行う試験及び定期試験を期末試験と称します。

(2) 追試験とは、病気その他やむを得ない事由により期末試験を欠席した者に対し、本人の願い出により行う試験です。

(3) 再試験とは、期末試験を受験して不合格だった者に対し行う試験です。再試験を実施するか否かは授業科目担当教員によるので、必ず実施されるものではありません。

(4) その他試験とは、学期の途中等授業科目担当教員が必要と認めたときに行う試験です。

（試験方法）

3. 試験はすべて筆記試験が原則ですが、作品、レポート、報告書、論文等の審査の結果をもって筆記試験に代えることがある他、学修支援システムを用いて実施されることがあります。

（成績）

4. 各授業科目の成績は、優（80点以上）、良（65点以上）、可（60点以上）、不可（59点以下）をもって表され、可以上を合格とします。なお、成績評価基準に関しては、当該授業科目のシラバスで確認してください。

（再試験の成績）

5. 再試験における各授業科目の成績は、満点を60点とします。

（受験不適者）

6. 次のいずれかに該当する者は、期末試験を受けることはできません。従って、その科目の単位を修得することができません。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 出席日数不足等のため授業科目担当教員から受験不適とされた者

(3) 当該学期の学費納入金未納の者（ただし、延納許可願いを提出し許可された者を除く。）

（試験の重複）

7. 期末試験において、同一試験時間に2科目以上の試験が重複した場合は、原則として低学年開講の授業科目を期末試験で受験し、他の科目は「重複による追試験願」を提出の上、追試験の受験許可を得てください。

（授業との重複）

8. 期末試験において、同一時間に授業が開講されている場合は、原則として期末試験の受験を優先してください。やむを得ず授業を優先する場合は、「授業との重複による追試験願」を提出の上、追試験の受験許可を得てください。

（不正行為）

9. 受験に際しては公正にしなければなりません。試験中（期末試験、追試験、再試験、その他試験）、または作品、レポート、報告書、論文等において不正行為を行った者は、学則第53条に従って懲戒されるとともに、下記の事項が適用されます。

なお、不正発覚後、審理委員会において審議された懲戒処分が教授会で決定するまでの期間は、学科長・教務委員の指導の下、履修登録・受講を認めることがあり

	<p>ます。</p> <p>(1) 不正行為におよんだ当該学期（セメスター）の全科目が無効（成績は「不適」となります）。</p> <p>(2) 教授会による懲戒処分が決定した翌日から2週間、懲戒内容を学内で公開（掲示）します。</p> <p>(3) 懲戒処分を受けた当該年度において、無効となった科目の特別再履修は認められません。</p> <p>(試験の欠席)</p> <p>10. 期末試験をやむを得ない事由により欠席した者が追試験を願い出る場合は、当該試験の欠席日を含んで7日以内に「試験欠席届」を提出し、追試験の受験許可を得なければなりません。</p> <p>なお、「試験欠席届」を提出する際は、欠席理由を詳細に記載し、以下に例示する証明書等を必ず添付する必要があります。</p> <p>【証明書の例示】</p> <p>(1) 病気、怪我等により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書または証明書 ・病院の領収書 <p>(2) 就職試験等により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験票または試験通知書 ・八木山キャンパスキャリアサポート課または長町キャンパス事務室の証明書 <p>(3) 公共交通機関の遅延により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅延証明書 <p>(4) バイク等の事故または故障により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故証明書 ・修理した店の領収書 <p>(5) 3親等内の葬儀により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会葬状または死亡診断書（写）（忌引きの日数は、1親等の場合は7日以内、2親等及び3親等の場合は3日以内とする。） <p>(成績発表)</p> <p>11. 成績は、前期及び後期の成績発表日に発表されるので、必ず本人が確認してください。受験した科目が不合格だった場合、科目によっては、所定の手続きの上、再試験を受験できることもあります。</p> <p>(追試験・再試験)</p> <p>12. 追試験及び再試験を受験する場合は、当該試験日の2日前までに受験申し込みを行い、受験票の交付を受けてください。なお、再試験の場合は受験手数料を添えて申し込みをする必要があります。</p> <p>(追試験、再試験の欠席)</p> <p>13. 追試験及び再試験を欠席した場合は、原則として再度の追試験は行われません。</p>
<p>受験者心得</p>	<p>(入室)</p> <p>1. 受験者は、試験開始5分前までに所定の試験室に入室してください。</p> <p>(着席)</p> <p>2. 受験者は、試験室において指定の座席に着席してください。ただし、座席が指定されていない場合は、試験監督者の指示に従ってください。</p> <p>(入室限度)</p> <p>3. 試験開始から25分以内に限り遅刻者の入室を認めますが、試験時間の延長は認められません。</p>

(退室)

4. 受験者の退室は、試験終了後、答案用紙の回収及び部数確認作業、または解答状況の確認作業が終了するまで、認められません。

(学生証・受験票)

5. 試験を受ける際は、必ず机の上に学生証を提示してください。なお、追試験の際は追試験受験票、再試験の際は再試験受験票もあわせて提示してください。

(特別受験票)

6. 学生証の不携行者は、特別受験証明を監督者に願い出て特別受験票の発行を受け、机の上に提示しなければなりません。(追試験の際の追試験受験票、再試験の際の再試験受験票の不携行についても同様とする。)

(特別受験票発行後の手続き)

7. 学生証不携行で受験した場合は、受験した日の翌日から数えて4日以内に特別受験票(学生用)に学生証を添えて八木山キャンパス教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出し、検印を受けなければなりません。(追試験受験票、再試験受験票を不携行で受験した場合についても同様に特別受験票に当該受験票を添えて提出すること。)なお、この手続きを怠った場合は、当該試験の受験が無効となる場合があります。

(持込許可)

8. 机に出すことが許可される物品は、学生証、受験票、筆記用具(筆箱は除く)及び時計(スマートウォッチ(タッチスクリーンとCPUを搭載した多機能型腕時計)は除く)に限ります。ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めたものはこの限りではありません。

(持込不可)

9. 8.以外の物品は、カバンに入れて自席の椅子の下又は試験監督者の指示する場所に整理して置いてください。机の中には一切物品を入れることは禁止します。

10. 携帯電話等の通信機器は電源を切ってカバンに入れてください。机に出すことはできません。

ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めた場合はこの限りではありません。

(試験中)

11. 試験中は、厳正な態度で臨み、以下の事項に注意して受験してください。

- (1) 試験中、受験者間の交渉は一切認められません。
- (2) 試験中は試験室内外ともに静粛にするよう心掛けなければなりません。
- (3) 試験室内で配布された解答用紙は、持ち帰ってははいけません。
- (4) 試験中、試験監督者に用件のある場合は、黙って挙手をしてください。
- (5) 答案用紙に所属学科、学年、学生番号及び氏名の記入がないものは無効となる場合があります。

(不正行為)

12. 受験者は不正行為および不正と疑われるような行為をしてはなりません。不正行為は、試験室で指摘された場合に限らず、採点の際発見された場合も不正行為として取扱いを受けます。

なお、次のいずれかに該当した場合は、解答用紙への書き込みの有無にかかわらず、不正行為と認定されます。

【不正行為と認定される事例】

- (1) 代人に受験させた場合、又は代人として受験した場合
- (2) 他人のために答案やメモなどを書いた場合、又は他人に答案やメモなどを書いてもらった場合(通信機器を使って送受信した場合も同様)
- (3) 他人の答案を見た場合、又は他人に自分の答案を見せた場合

	<p>(4) 答案用紙を予め用意した用紙あるいは他人の用紙とすり替えた場合</p> <p>(5) 机に出すことが許可された物品以外のものを見た場合、又は出した場合</p> <p>(6) 机に出すことが許可された物品（ノート等を除く）や机などに不正な書き込みをした場合</p> <p>(7) 机に出すことが許可された物品を監督者の許可を得ずに貸借した場合</p> <p>(8) 言語や動作をもって試験の内容について互いに連絡した場合</p> <p>(9) 答案用紙を持ち帰った場合</p> <p>(10) 監督者の指示に直ちに従わない場合</p>
--	--

災害発生時における休講および試験の延期等について

<p>休講および試験の延期等について</p> <p>休講および試験の延期等を行う際の情報の提供について</p> <p>授業や試験を受けられない又は遅刻した場合の取扱い</p> <p>お問い合わせ先</p>	<p>大規模災害等（大規模地震・台風・大雪・洪水等）が発生した場合、あるいは予想される場合は、以下の措置を行います。</p> <p>仙台市全域において学生および教職員の通学、通勤が困難な場合は、両キャンパス（両学部）において、下記により休講および試験の延期措置を行います。（目安：JR在来線が不通）</p> <p>休講および試験の延期等の措置を行う際は、以下の方法により周知します。</p> <p>1) 大規模地震発生等の場合 授業の休講や試験の延期等に係る情報提供は、原則として本学Webサイト、ポータルサイトならびに報道機関を通じ、できる限り速やかに周知いたします。</p> <p>2) 台風・大雪等の場合又はこれらが予想される場合 台風、大雪等の場合又はこれらが予想される場合は、原則として本学Webサイト、ポータルサイトならびに可能な場合は報道機関を通じ、前日午後7時までに周知いたします。</p> <p>休講および試験の延期となった科目は原則、授業等予備日に行います。 対応が決定次第、本学 Web サイト・ポータルサイトならびに掲示板でお知らせします。</p> <p>公共交通機関の運休（不通）時、その影響による遅延や交通事情による障害のため、授業や試験を受けられなかった場合は、次の通り取り扱います。 所定の届け出用紙（当該公共交通機関発行の遅延証明書等必須）により定められた期日まで手続きした場合の取り扱いは以下の通りです。詳細はお問い合わせください。</p> <p>1) 授業については「特別指導」を受けることができる。 2) 試験については追試験対象者とする。</p> <p>八木山キャンパス（工学部・建築学部）：教務学生課 022 - 305 - 3160 長町キャンパス（L D 学部）：長町校舎事務室 022 - 304 - 5501</p>
--	---

成績について

G P A

各学期末の成績発表日に学生指導支援システムまたは成績通知書で確認できます。必ず本人が確認し、必要に応じて履修指導を受けてください。成績通知書は保護者にも別途郵送されます。

成績通知書には、履修した全科目の成績が記載されます。また進級や卒業条件となる科目区分ごとの修得単位数や、『合格した科目の平均点』および『G P A』が記載されます。

『G P A (Grade Point Average)』とは、履修登録した各授業科目の成績を、それぞれ5段階で評価した値の平均値であり、学力を客観的に計る方法として、主に欧米の大学などで一般的に用いられ、日本の大学でも導入が進められている成績評価指標の一つです。

G P Aは、以下の計算式により、算出されます。

【成績5段階評価の区分】

成 績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【G P Aの計算式】（小数第3位を四捨五入して第2位まで表示します）

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Aの修得単位数}) + (3 \times \text{Bの修得単位数}) + (2 \times \text{Cの修得単位数}) + (1 \times \text{Dの修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (F (不可・不適) の科目の単位数を含む) の合計}}$$

G P Aには、不合格（不可・不適）の科目も算入されるので、不合格科目があるとG P A評価を下げることになります。（「不可」は期末試験などの成績評価で不合格となった科目、「不適」は出席日数不足や試験を受けない等により履修放棄となった科目です。）

【G P Aを用いた学修指導】

G P Aが基準値未満の者（下表のとおり）は、進路変更指導を含む学修指導を受けることとなります。

学科	G P A値
建築学科	G P A 1.00 未満の者

G P A：第1 Semesterから直近 Semesterまでの教職科目を除いた通算のG P A
Semester毎G P A：Semester毎の教職科目を除いたG P A

大学院への推薦基準など成績の総合評価にG P Aを用います。

地域志向科目

地域志向科目

本学では、平成26年度に、文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、「オールせんだライフデザイン実践教育共創事業」をテーマに、教育、研究、社会貢献の活動を通じて、地域の産業や文化の発展に貢献できる人材の育成を目的に実施してきました。

各学科では、地域志向科目が開講されており、学生の皆さんは、これらの科目を履修することで、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けることが可能になっています。

（各学科の履修ガイダンス「7. 地域志向科目」参照）

具体的な「地域志向教育」を担う「地域志向科目」の設定および授業内容は、下記のとおりです。

(1) 「地域志向科目」とは、ハード（技術）とソフト（デザイン）の両面およびそれを融合させた内容で構成し、目標とする人材を養成するために設定された科目。

(2) 「地域志向科目」の授業内容

- 1) 自治体（地域）が有する課題の認識や地域づくり（地域振興・イノベーション創出）の事例
 - ① 地域づくり（人・モノ・場・情報）の事例
 - ② 地域・産業・技術のイノベーション展開事例
 - ③ 地下鉄東西線沿線の課題解決に向けた取り組み
 - ④ 地域における防災・減災
- 2) 地域産業における製品や技術・情報の高付加価値化の手法
 - ① 固有技術の高度化
 - ② 次世代に対応した先進技術
 - ③ デザイン・マーケティング・プロモーション
- 3) 地域における「魅力」の発見、「豊かさ」の追求に向けた取り組み
 - ① 地域における「暮らし」と「なりわい」
 - ② 地域の資源（人・歴史・文化・伝統・自然・動植物・もの・素材・その他）の活用
 - ③ 地域の環境とエネルギー
 - ④ 都市計画や住空間
 - ⑤ 福祉と健康
- 4) 持続可能な社会構築に向けた鳥瞰的視野の醸成
 - ① 環境負荷低減に向けた取り組み
 - ② 将来の仙台のまちづくりに向けた取り組み
 - ③ まちづくりにおけるソーシャルビジネス・コミュニケーションビジネス（地域住民・企業・NPO・NGOの参画）の展開
- 5) その他「地域志向教育」により目標とする人材の養成に資すると考えられる授業内容

建築学部

**教養教育科目
履修ガイダンス**

教養教育科目履修ガイダンス

(建築学部 教養教育科目)

1. カリキュラムの特徴

専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学習することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

2. 授業科目と学士力の対応表

【教養教育】身につけるべき学士力	
①	コミュニケーション能力 言語の読解力，言語による自己表現と相互理解の能力
②	批判的思考力 現代世界の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識
③	社会生活への適応力 精神的・身体的に健全であるための実践能力と知識
④	工学・建築学およびライフデザイン学を学ぶための基礎学力 数学，自然科学，経済学等の基礎知識

科目区分	授業科目名	教養教育 身に付けるべき能力			
		①	②	③	④
教養教育科目	1 表象文化論		○	○	
	2 現代社会論		○	○	
	3 現代メディア論		○	○	
	4 環境問題とエコロジー		○	○	
	5 市民と法	○	○	○	
	6 暮らしと心理学	○	○	○	
	7 科学思想史	○	○	○	○
	8 東北文化史	○	○	○	
	9 市民と政治	○	○	○	
	10 産業社会と心理学	○	○	○	
	11 産業社会と倫理		○	○	○
	12 情報社会の経済		○		○
	13 日本国憲法	○	○	○	
	14 現代の哲学		○	○	
	15 ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	○		○	
	16 ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	○		○	
	17 職業指導(工業)	○			
	18 情報社会とモラル			○	
	19 情報と職業			○	
	20 工業概論		○	○	
	21 フランスの文化と言葉	○	○		
	22 ドイツの文化と言葉	○	○		

科目区分	授業科目名	教養教育 身に付けるべき能力			
		①	②	③	④
教養教育科目	23 韓国の文化と言葉	○	○		
	24 中国の文化と言葉	○	○		
	25 スタディスキルⅠ	○			○
	26 スタディスキルⅡ	○			○
	27 プレゼンテーション	○	○	○	
	28 ビジネスマナー	○		○	
	29 英語Ⅰ A	○			
	30 英語Ⅰ B	○			
	31 英語Ⅱ A	○			
	32 英語Ⅱ B	○			
	33 英会話 A	○			
	34 英会話 B	○			
	35 資格英語 A	○			
	36 資格英語 B	○			
	37 健康・運動科学実習Ⅰ	○		○	
	38 健康・運動科学実習Ⅱ	○		○	
	39 スポーツ科学実習	○		○	
	40 特別課外活動Ⅰ				
	41 特別課外活動Ⅱ				
	42 特別課外活動Ⅲ				
	43 特別課外活動Ⅳ				
	44 他大学等教養科目群				

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目
学部区分	学科区分	分野	学習進度+通し番号	
F	GE	LE	110	
FGE-LE-110				

※建築学部教養教育科目「スタディスキルI」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目
Z	教職科目

2 段目 (分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
IDP		学際
Z	教職	教職

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
600番台	学習進度6クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-CCS-110	表象文化論	2							
FGE-CCS-111	現代社会論	2							
FGE-LE-110	スタディスキル I	2							
FGE-LE-130	英語 I A	2							
FGE-LE-140	英会話 A	2							
FGE-MPH-110	健康・運動科学実習 I	2							
FGE-CCS-260	フランスの文化と言葉		2						
FGE-CCS-270	ドイツの文化と言葉		2						
FGE-CCS-280	韓国の文化と言葉		2						
FGE-CCS-290	中国の文化と言葉		2						
FGE-LE-211	スタディスキル II	2							
EAGE-LE-212	プレゼンテーション	2							
FGE-LE-231	英語 I B	2							
FGE-LE-241	英会話 B	2							
FGE-MPH-211	健康・運動科学実習 II	2							
FGE-CCS-310	現代メディア論		2						
FGE-CCS-311	環境問題とエコロジー		2						
FGE-CCS-320	ライフ・キャリアデザイン論 I		2						
FGE-LE-332	英語 II A		2						
FGE-LE-150	資格英語 A		2						
FGE-MPH-320	スポーツ科学実習		2						
FGE-CCS-410	市民と法			2					
FGE-CCS-411	暮らしと心理学			2					
FGE-CCS-412	科学思想史			2					
FGE-CCS-413	東北文化史			2					
FGE-LE-433	英語 II B			2					
FGE-LE-251	資格英語 B			2					
FGE-CCS-510	市民と政治				2				
FGE-CCS-511	産業社会と心理学				2				
FGE-CCS-512	産業社会と倫理				2				
FGE-CCS-521	ライフ・キャリアデザイン論 II				2				
FGE-CCS-531	職業指導(工業)				2				
EAGE-CCS-532	情報社会とモラル				2				
FGE-CCS-301	工業概論				2				
FGE-CCS-610	情報社会の経済					2			
FGE-CCS-611	日本国憲法					2			
EAGE-CCS-633	情報と職業					2			
EAGE-LE-613	ビジネスマナー					2			
FGE-CCS-710	現代の哲学							2	
FGE-IDP-010	特別課外活動 I
FGE-IDP-020	特別課外活動 II
FGE-IDP-030	特別課外活動 III
FGE-IDP-040	特別課外活動 IV
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群

1 表象文化論 FGE-CCS-110

Culture and Representation

選択 2単位 1年前期

授業の概要：本講義においては、諸メディア（芸術・映画・アニメ・マンガ等）で再現・表現された様々なイメージについて、その歴史的背景や文化的文脈とのかかわりも踏まえて分析、考察を行う。まず表象・文化とはどのようなものかについて確認した上で、設定した時代・テーマに関するイメージを解釈し、同時に広く文化・時代状況について検討する。

授業の達成目標：表象文化論についての基礎知識を習得するとともに、表象を多角的に捉える力を身につける。

2 現代社会論 FGE-CCS-111

Modern Sociology

選択 2単位 1年前期

授業の概要：日本社会は戦後の高度経済成長を通して大きく変貌を遂げてきた。本講義では、私たちが生きている現代日本社会の成り立ちや特徴を理解することを目的に、高度経済成長が私たちの生活にもたらした変化、その意味について解説する。

授業の達成目標：日本社会が高度経済成長のなかでいかに変容してきたのかについて理解し、現代日本社会の特徴を理解するための視点を養う。

3 現代メディア論 FGE-CCS-310

Modern Media

選択 2単位 2年前期

授業の概要：我々が日々接しているメディアは、消費社会の高度化と科学技術の進展を背景に、世界中を覆い尽くし、生活になくしてはならないものとなっている。本講義では、多様な意味を持つ「メディア」の20世紀以降の展開を概説し、さらにそれらが我々の社会・文化にどのような影響を与えてきたかについて考察を行う。

授業の達成目標：主に書籍・雑誌、絵本、映像メディアについての基礎知識を習得するとともに、各メディアの分析方法を身につける。現代の各メディアの歴史的な展開と、我々の社会意識・文化状況との関係について理解する。

4 環境問題とエコロジー FGE-CCS-311

Environmental Issues and Ecology

選択 2単位 2年前期

授業の概要：産業革命以降の急速な人口増加と経済活動の拡大により、人類は大きな課題に直面している。環境問題を理解するために必要なエコロジーに関する知識を学び、環境問題について理解し、社会的な動きを見ていく。また、自然と共生する社会を築くための基盤となる考え方として、自然から与えられる恵と災害とを認識する。授業を通して、日常生活や地域社会などの身近な場面で、社会の一員として地球環境を維持していくために自らできることを考える。

授業の達成目標：持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable development Goals）で取り上げられている環境分野に関連する諸問題（安全な水の供給、クリーンなエネルギーの供給、持続可能な生産、気候変動への対策、海洋資源の持続的利用、森林資源の持続的利用）について理解する。

5 市民と法 FGE-CCS-410

Introduction to Law

選択 2単位 2年後期

授業の概要：社会が複雑化するなか、トラブル解決の手段としての法・裁判はますます重要になっている。裁判員制度のように、市民が法・裁判にいつそう深くかかわる機会もふえてきた。本講義では、法・裁判のしくみと法的な考え方について、具体的に、根本から考える。

授業の達成目標：法・裁判の現状と考え方に触れ、基礎的な知識を修得すること。法から社会を知ること。

6 暮らしと心理学 FGE-CCS-411

Everyday Life and Psychology

選択 2単位 2年後期

授業の概要：パーソナリティ、適応、ストレスの問題等、一般心理学の基礎を知るとともに、人間行動の心理が日々の社会生活とどのように関わっているかを理解していく。とくに現代社会はストレス社会と言われて久しい。メンタルヘルスの問題を理解し、ストレス軽減のために必要な心身のストレスマネジメントの方法を考えていく。

授業の達成目標：日常生活場面での人間行動を心理学の立場からとらえることで、自己理解と他者理解の視点を学ぶ。また、精神的健康を維持するために、心と身体の関係性を理解するとともに、ストレスに関する理解を深め、その知識と対処法を実生活に生かせることを目標とする。

7 科学思想史 FGE-CCS-412

History of Scientific Thought

選択 2単位 2年後期

授業の概要：社会の発展は科学によって支えられてきたが、科学の発展もまた社会と緊密な関係を取り結んでいる。科学との連携がいっそう重要となった現代社会の問題を考えるために、本講義では、科学と思想・宗教・文化との関わりを歴史的にみていくこととする。

授業の達成目標：科学の思想そのものが問われ、科学と社会の関係、文明における科学の役割が問題とされている現在、古代・中世から近代、現代に至るまでの科学の発達史を、その時代の社会的・思想的諸条件との関連を踏まえて理解できるようにする。

8 東北文化史 FGE-CCS-413

Cultural history of Tohoku

選択 2単位 2年後期

授業の概要：東北地方の各地域は中央の都に対する周縁の地方として位置づけられ、地方・自然・人情・懐古などのイメージで表現されてきた。この授業では、アニメなどのサブカルチャーを含めて様々な表現作品から東北のイメージを探り、東日本大震災を経験した現在において作られつつある価値観を考えていく。参加者には、自分の経験や知識をふまえた、積極的な意見表明を期待する。

授業の達成目標：東北を舞台としたアニメ、漫画、映画、小説、評論を通じて、東北の諸地域がどのように意識され、表現されているかを考える。東北各県をめぐるイメージや価値観が、従来どのように形成されてきたかをあとのつげ、現在どのように変化しているかを理解することを目標とする。また、そのようなイメージの形成および変化の過程で、どのような文脈や背景があるのかを、歴史的な流れの中で把握することを目指す。

9 市民と政治 FGE-CCS-510

Introduction to Politics

選択 2単位 3年前期

授業の概要：政治はわれわれの社会生活を左右する。誰も政治から逃げられない。だから誰もが政治のしくみを理解し、その正しい方向性について考えるべきである。本講義では、政治のしくみと政治的な考え方について、そして現代日本における論点について、具体的に、根本から考える。

授業の達成目標：日本政治の現状と考え方に触れ、基礎的な知識を修得し、政治的判断力を養うこと。政治から社会を知ること。

10 産業社会と心理学 FGE-CCS-511

Industrial Society and Psychology

選択 2単位 3年前期

授業の概要：この授業では、知覚、認知、注意、態度、適性など、主に認知心理学、産業心理学、交通心理学、社会心理学のトピックスを取りあげながら、産業事故の背景にある人間側の要因を理解していく。また、産業社会の安全を維持するための心理学アプローチについて考察する。さらに、人間行動の基礎を理解するために、簡便な心理実験を複数回実施する。自ら実験材料を作成し実験を実施するなど、能動的な体験学習を通して、人間行動の原理についての発見学習を促していく。またグループ作業による共同でのデータ整理と分析を通して、課題探求の意識を深めていく。

授業の達成目標：幸福で安全な人間社会をつくるため、心理学が果たす役割は多々ある。人間行動の基礎を理解することで、ヒューマンエラーや産業事故を防止し、幸福で安全な社会生活を送るための視点を学ぶ。

11 産業社会と倫理 FGE-CCS-512

Industrial Society and Ethics

選択 2単位 3年前期

授業の概要：産業、工学が社会および地球環境に及ぼす効果、価値に関する理解や責任など、それらに関わる者として社会に対する責任を自覚する能力を身につける。産業や工学の究極目的が人類の福祉の実現であること、また産業に携わる者や技術者の倫理観の欠如が、福祉とは逆に、社会および地球環境にとって大きな問題を生ぜしめている現状を理解する。ついで具体的な事例における倫理的な価値判断の方法を学ぶ。

授業の達成目標：倫理観をもって専門技術を応用し、人類福祉の実現、社会の持続・発展に貢献する人材となるための基本的資質を身につける。

12 情報社会の経済 FGE-CCS-610

Information Society Economics

選択 2単位 3年後期

授業の概要：構造改革、累積する国債、少子・高齢化と年金といった問題が山積している日本経済は、この先、安定的な成長路線に復帰できるのであろうか。この講義では、戦後の復興期、高度成長期から平成の「失われた20年」までを振り返りながら、第10回までは日本経済、それ以降は日本企業の全体像を解説し、金融・財政の仕組みにも言及しながら、今日の我々をとりまく経済の諸問題について考察する。

授業の達成目標：情報化社会における基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状を分析する力を養います。

13 日本国憲法 FGE-CCS-611

The Constitution of Japan

選択 2単位 3年後期

授業の概要：いま憲法をめぐる議論は極めて重要な政治的論点になっている。憲法の基本と役割を知ることはますます必要である。本講義では、憲法とは何か、その機能は何かについて、具体的に、根本から考える。

授業の達成目標：日本国憲法の歴史と考え方に触れ、基礎的な知識を修得すること。憲法から社会を知ること。

14 現代の哲学 FGE-CCS-710

Modern Philosophy

選択 2単位 4年前期

授業の概要：17世紀から19世紀にかけての市民革命をめぐる言説を学ぶことで「国家とは何か」「社会とは何か」について問う姿勢を養う。

授業の達成目標：国家論・市民社会論を中心テーマとして西洋近代思想史の流れを辿り、現代社会の理解に役立てる。

15 ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ FGE-CCS-320

Life carrier design theory I

選択 2単位 2年前期

授業の概要：大学生の現在において、多様で複雑な社会の中で自分の人生や働き方を考えることが重要である。自分の未来を自分で描くことにより、自分の将来について熟考することは大学の学びを深めることにもつながる。大学生活を自分で創り、それを将来の自分のキャリアと関連付けさせる。そのために実践的な形式とコミュニケーションを重視する。学生生活、今までの経験、自分の将来、社会の動きなどの多様な問いに対して、自分の考えを言語化する。正解がある訳ではない人生と捉え、失敗を恐れずに挑戦し、その繰り返しの中で自分の成長につなげていく。就職活動のためのノウハウやスキルではなく、社会や他者の多様な考えや視点を知り、『自分で考える』ことを実践する。社会人へ移行する上で必要になる主体的に自分の『大学の学びと経験』、将来の『仕事』『職業』『生き方』をともに考えていく。

授業の達成目標：将来について真剣に自分事として考える力を習得する。自分の考えや意見を発信でき、自ら選択し決断できる思考と行動力を醸成する。大学生活で何を学び経験するかや専門科目にどう取り組んでいくかを考える。変化する社会や地域の中の自己を認識理解し位置付ける。『自分はどう思うか』を問い続け、自分自身に対する理解を促進し生き方や働き方を考えられるように実践的に学ぶ。自分の目標や夢を具体的に描けるようになることを目指す。それにより、大学までの学びや経験と関連させながら、多様な視点を持った考え方や捉え方を持ち、自身のキャリアのビジョンを立案するために活用できるようになる。

17 職業指導（工業） FGE-CCS-531

Vocational Guidance

選択 2単位 3年前期

※「工業」の免許状取得希望者のみ必修

授業の概要：現代社会の工業技術の変化は日進月歩で著しいものがあり、創造的な能力と適性が以前よりも増して強く求められている。一方で、旧き技術を大切にしながら、新たな工業技術の創造に努める工業社会の歴史と適性の概念の変遷を学ぶことも重要であり、職業観の形成、職業技能の習得過程、職業適性の諸理論の理解を通して、モノ作りを支える人たちのキャリア形成の問題に触れる。さらに、工業高校でのキャリア教育の授業計画作成をグループワークで行うことを通して、教育実践の具体例を学んでいく。

授業の達成目標：工業社会で働くことになる生徒の指導にあたり、教師はまず適正な職業観をもつことが求められる。また教師は、生徒がモノ作りなどの生産の仕事に個人の成長と幸福感を得ることができるよう、自己発見や自己理解が重要なことも指導する必要がある。その上で、現代の工業社会で課題となる職業選択、職業適性、能力開発等について基礎を学習し、生徒の主体的な問題発見と問題解決能力を育成するための教育の方法を習得するものとする。

16 ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ FGE-CCS-521

Life carrier design theory II

選択 2単位 3年前期

授業の概要：何故キャリアをデザインする必要があるのか？キャリアデザイン論Ⅰで学んだことをさらに発展させる。学生時代も就職してから、将来の働き方、生き方を自分でデザインすることは重要である。場合によっては修正し、再設計、再々設計していくことが必要になってくる。そのために実践的な形式とコミュニケーションを重視し進行する。個人、グループ、全体でワークを展開し、自分の考えや夢と向き合い明確にしていく。社会の現実目に向け、社会人へ移行するための視点や考えを養う。そのため、多様な視点の問いに対し自分なりの考えを持ち、他者の意見に耳を傾け言語化していく。就職活動のためのノウハウやスキルではなく、自分に存在する強みや資源をどう活かすかを考察し、連続する社会人生活に必要な挑戦と回復する力の重要性を共に考えていく。

授業の達成目標：キャリアデザイン論Ⅰで学んだ内容をさらに発展させる。具体的には、自分の夢や目標をより具体的にデザインできるようになる。キャリアデザインを改めて描くことで自身の変化と今後の目指す方向性の発見になる。将来について真剣に自分事として考え、『自分の将来を思い描き、自分で選び決める』力を習得する。そのために必要となる考え方ややり方を学ぶ。大学生活での学びと経験、専門科目を今後の社会人生活に関連付けさせる。そのために、目まぐるしく複層的に変化する社会において、短期視点だけではなく中長期の視点を身に付け、自ら選択し決断できる思考と行動力を醸成する。

18 情報社会とモラル EAGE-CCS-532

Ethical and Legal Issues of the Information Society

選択 2単位 3年前期

※「情報」の免許状取得希望者のみ必修

授業の概要：本講義は高校教員免許状の取得をめざし、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。情報社会において深刻化している法的ないし道徳的問題をどう解決すべきかについては、なお模索が続いている。本講義では、情報社会についての社会科学的概観を踏まえて、主にプライバシーと知的財産権（とくに著作権）という二つの重要トピックを、倫理的・法学的見地から講義する。また受講者による発表や討議を行い、双方向的な学習を目指す。

授業の達成目標：情報社会における法的ないし道徳的諸問題について具体的に学び、問題解決の方向性について、自ら考慮し判断する力を養う。

19 情報と職業 EAGE-CCS-633 Information Technology and Occupations

選択 2単位 3年後期
※「情報」の免許状取得希望者のみ必修

授業の概要：本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。情報社会における産業・就業構造、さらにビジネス・労働環境等の変遷及び変化について学習し、倫理観、職業観、就労観について考察する。そして、「職業人としての生き方・在り方」を考えることができる講義内容とする。

授業の達成目標：1. 情報社会における企業環境の変遷及び変化について理解する。
2. 企業のIT (Information Technology) 化における現状と課題について理解する。
3. 「職業人としての在り方・生き方」を考察し、職業について理解を深める。

21 フランスの文化と言葉 FGE-CCS-260 Culture and Language of France

選択 2単位 1年後期

授業の概要：フランスの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なフランス語文法、会話を学び、フランスという国についての理解をさらに深める。

授業の達成目標：世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。

23 韓国の文化と言葉 FGE-CCS-280 Culture and Language of South Korea

選択 2単位 1年後期

授業の概要：韓国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な韓国語文法、会話を学び、韓国という国についての理解をさらに深める。

授業の達成目標：世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。

20 工業概論 FGE-CCS-301 Introduction to Industry

選択 2単位 3年前期
※「工業」の免許状取得希望者のみ必修

授業の概要：本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。高等学校において生徒に工業系科目の授業を提供するために必要となる、工業教育全体にかかわる機械、電気、情報、建築、化学の各分野のエッセンスを、演習や実習の要素を交えながら、問題演習に重点を置きつつ、幅広く講ずる。技術者としての倫理観や実践的な技術を修得させ、環境およびエネルギーに配慮しつつ、工業技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。

授業の達成目標：現代社会における工業の意義や役割を理解し、「どのようなものを、いかに作るか」を問い直す意識をもって、工業の各分野に関する基礎的な知識と技術・技能を修得することで、将来高等学校の工業教育にかかわる際に必要な資質を養うこと。それを通じて、工業高校の生徒に対して指導者として教育を行うために必要となる、工業教育への自信と力量を備えること。

22 ドイツの文化と言葉 FGE-CCS-270 Culture and Language of Germany

選択 2単位 1年後期

授業の概要：ドイツの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なドイツ語文法、会話を学び、ドイツという国についての理解をさらに深める。

授業の達成目標：世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。

24 中国の文化と言葉 FGE-CCS-290 Culture and Language of China

選択 2単位 1年後期

授業の概要：中国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な中国語文法、会話を学び、中国という国についての理解をさらに深める。

授業の達成目標：世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。

25 スタディスキルⅠ FGE-LE-110

Study skills I

必修 1単位 1年前期

授業の概要：工大で学び、社会に出るための準備として「日本語力」、「大学生活管理能力」を身に付ける。そのために、以下の2つのことを学び、実践する。

I 「正しく分かりやすい日本語表現」をするために必要な「文章添削・文章構成・敬語」の基礎を学ぶ。

II 大学生活を記録・管理する。

授業の達成目標：大学在学中、並びに社会人となってから必要となるスタディスキル（学修能力）、特に日本語能力、生活管理能力の基礎を身につけることを達成目標とする。

26 スタディスキルⅡ FGE-LE-211

Study skills II

必修 1単位 1年後期

授業の概要：本講義では、「日本語力」と「大学生活管理能力」をさらに磨く。そのために、以下の2つのことを学び、実践する。

I 新聞記事を材料に、語彙力・読解力・要旨作成力を高める。

II 大学生活を記録・管理し、それをもとに「自己紹介書」を作成する。

授業の達成目標：大学在学中、並びに社会人となってから必要となるスタディスキル（学修能力）、特に日本語能力、生活管理能力の基礎を身につけること、身に付けた力を実際に使えるようになることを達成目標とする。

27 プレゼンテーション EAGE-LE-212

Presentation

選択 1単位 1年後期

授業の概要：人間のコミュニケーション機能は本来自然に備わっているはずなのに、対人関係においてコミュニケーションを苦手とする人間は学生にも社会人にも非常に多い。本講義では多くの現代日本人が抱える、コミュニケーションへの苦手意識克服に理論的かつ適切な解を与えつつも、思考訓練と表現のツールである「図解」を用いて、将来ばかりか人生に必要なとされるコミュニケーション、プレゼンテーション能力をグループワークも取り入れながら訓練、開発していく。

授業の達成目標：[1] コミュニケーション、プレゼンテーションに必要な思考能力を実践的に培う。

[2] 自分の持つコミュニケーション能力を高める。

[3] 今までより以上にプレゼンテーション能力を高める。

28 ビジネスマナー EAGE-LE-613

Business Manners

選択 1単位 3年後期

授業の概要：自分自身を見つめ、社会性をもつ人間としての基本を学ぶ。また、仕事への取り組み方やより良い人間関係など、社会人として生きる上で大切な事を学習する。

授業の達成目標：人間力を磨き、社会で活躍するための基礎を学習します。

社会人として活躍する上で重要な基本マナーやコミュニケーション力、考え方などを身につけます。

ビジネスマナーと並行し、将来を決める就職活動の必勝法も学びます。

自分の能力を活かし、将来安定した人生を送るために必要な基礎知識を実践的な授業で習得します。

29 英語ⅠA FGE-LE-130

English I A

必修 1単位 1年前期

授業の概要：speaking、listening、writing、readingの四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて情報の送受信を行うための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文の種類、五文型、時制である。

授業の達成目標：1. 品詞、文の種類、文型、時制などの基礎的な英文法を理解できる。

2. 基礎的英文法の理解に基づいて、speaking、listening、writing、readingの四分野において、日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。

30 英語ⅠB FGE-LE-231

English I B

必修 1単位 1年後期

授業の概要：speaking、listening、writing、readingの四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、長文読解のための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較である。

授業の達成目標：1. 主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較などのより複雑な英文の理解に必要な文法項目を理解できる。

2. 上の文法項目の理解に基づいて、speaking、listening、writing、readingの四分野において、日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。

31 英語Ⅱ A FGE-LE-332
English II A

必修 1 単位 2 年前期

授業の概要：speaking、listening、writing、reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づき、TOEIC の適語補充問題レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文型、時制、受動態、関係詞である。

授業の達成目標：1. 品詞、文型、時制、受動態、関係詞などの基礎的な英文法を理解できる。
2. 英語圏での日常生活、およびビジネスの現場で用いられる TOEIC レベルの英文メール、手紙、広告などの、基本的、実践的内容の英文を理解できる。

32 英語Ⅱ B FGE-LE-433
English II B

必修 1 単位 2 年後期

授業の概要：speaking listening writing reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、TOEIC レベルの長文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、分詞、不定詞、動名詞、仮定法である。

授業の達成目標：1. 分詞、不定詞、動名詞、仮定法などにより高度な英文法に関する知識を持つ。
2. 英語圏での日常生活、およびビジネスの現場において用いられる TOEIC レベルの社内通知、表、アンケートなどを含む様々なフォームの英文を理解できる。

33 英会話 A FGE-LE-140
English Conversation A

選択 1 単位 1 年前期

授業の概要：The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn & share information about themes relevant to students' daily lives. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively.

授業の達成目標：The objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.

34 英会話 B FGE-LE-241
English Conversation B

選択 1 単位 1 年後期

授業の概要：In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. Students will also learn presenting skills, vital for learning to express themselves & their ideas to a wider audience in English.

授業の達成目標：The objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.

35 資格英語 A FGE-LE-150
English for Specific Purposes A

選択 1 単位 2 年前期

授業の概要：TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いて、TOEIC テストへの基本的な知識と対応能力を身につける。取り上げる文法項目は品詞、文型、時制、準動詞、主語と動詞の一致などの基本的事項や重要イディオムなどであり、400 点を目標とした授業を行う。

授業の達成目標：1. 品詞、文の種類、文型、時制、主語と動詞の一致などの英文法の基礎的事項が理解できる。
2. 英語の首韻体系の基本的事項が理解できる。
3. TOEIC テストへの基礎的対応力を有する。

36 資格英語 B FGE-LE-251
English for Specific Purposes B

選択 1 単位 2 年後期

授業の概要：TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いた演習を通して、より複雑な構造の英文を理解する。取り扱う文法事項は、受動態や不定詞、動名詞、分詞、関係詞、仮定法などである。また、重要イディオムや語彙問題の演習を通して、よりスコアに結び付く実践的な力をつける。450～500 点を目標とした授業内容である。

授業の達成目標：1. 受動態、準動詞、関係詞、仮定法などより複雑な構造の英文を理解できる。
2. TOEIC リーディング・セクションの長文問題への対応力を有する。

37 健康・運動科学実習Ⅰ FGE-MPH-110
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences I
選択 1単位 1年前期

授業の概要：健康・運動科学実習の授業では、健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動を捉え、且つ挑戦していく能力である身体リテラシーを向上させることを目的としています。各種目の理論・技術を習得していくと同時に、心身の健康増進と、何より学生間のコミュニケーションの活性化を図り、本授業をきっかけとしてスポーツに親しむ態度を育成します。

健康・運動科学実習Ⅰでは複数の種目の中から1つを選択し、はじめて実践する場合であってもその種目を十分に実践できるように授業をすすめていきます。これまでの学校体育で経験したことのある種目を中心に配置しています。

授業の達成目標：①良好なコミュニケーション、人間関係を築くことができるようになること。

- ②生涯スポーツ種目、生涯スポーツ活動の素養を養うこと。
③自己の生活習慣および体力レベルを把握し、健康課題への対応について検討しながら、健康管理の方法を習得すること。

39 スポーツ科学実習 FGE-MPH-320
Practice of Sports Science
選択 1単位 2年前期

授業の概要：スポーツ科学実習では、運動やスポーツを楽しむという運動への欲求を満ち、また自ら工夫しながら身体を動かすことで得られる達成感や自己肯定感に重点を置いています。その結果、生涯にわたって運動やスポーツに積極的に取り組むきっかけとなることが期待されます。また、運動やスポーツを通じて他者との関わりから人間関係が構築され、コミュニケーション能力の向上を目指します。

スポーツ科学実習では複数の種目の中から1つを選択し、はじめて実践する場合であってもその種目を十分に実践できるように授業をすすめていきます。これまでの学校体育ではあまり体験しない種目を中心に、集中コースでは自然に親しみながら実践する種目を配置しています。

授業の達成目標：①日常生活における身体活動（スポーツ）の意義と効果について理解すること。

- ②スポーツの実践を通じて、心身の健康の維持・増進を図るための素養を高めること。
③受講者同士が協力しあうことで信頼関係を構築する力を養い、ライフスキルの獲得を図る。

41 特別課外活動Ⅱ FGE-IDP-020
Off-class Practice II
選択 1単位 1年前期～4年後期

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

38 健康・運動科学実習Ⅱ FGE-MPH-211
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences II
選択 1単位 1年後期

授業の概要：健康・運動科学実習の授業では、健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動を捉え、且つ挑戦していく能力である身体リテラシーを向上させることを目的としています。各種目の理論・技術を習得していくと同時に、心身の健康増進と、何より学生間のコミュニケーションの活性化を図り、本授業をきっかけとしてスポーツに親しむ態度を育成します。

健康・運動科学実習Ⅱでは健康・運動科学実習Ⅰと同様に複数の種目の中から1つを選択し、はじめて実践する場合であってもその種目を十分に実践できるように授業をすすめていきます。これまでの学校体育で体験したことのある種目を中心に配置しています。

授業の達成目標：①良好なコミュニケーション、人間関係を築くことができるようになること。

- ②生涯スポーツ種目をみきわめながら生涯スポーツ活動の素養を養うこと。
③自己の生活習慣および体力レベルを把握し、健康課題への対応について検討しながら、健康管理の方法を習得すること。

40 特別課外活動Ⅰ FGE-IDP-010
Off-class Practice I
選択 1単位 1年前期～4年後期

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

42 特別課外活動Ⅲ FGE-IDP-030
Off-class Practice III
選択 2単位 1年前期～4年後期

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

43 特別課外活動Ⅳ FGE-IDP-040

Off-class Practice Ⅳ

選択 2単位 1年前期～4年後期

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

44 他大学等教養科目群 FGE-IDP-050

Subjects offered other universities

選択 4単位 1年後期～4年前期

詳細については、シラバスの「他大学開講科目」、CAMPUS LIFE の「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

英語科目の履修要項

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

1. 履修科目

〈必修科目〉(1・2年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数			
		1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
英語 I A	1	2			
英語 I B	1		2		
英語 II A	1			2	
英語 II B	1				2

「英語 I A」及び「英語 I B」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

「英語 II A」及び「英語 II B」は、資格試験への導入を含む、より実践的内容を学習する科目です。

〈選択科目〉(1・2年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数			
		1年		2年	
		前期	後期	前期	後期
英会話 A	1	2			
英会話 B	1		2		
資格英語 A	1			2	
資格英語 B	1				2

「英会話 A・B」では、少人数クラスで、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語 A・B」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点レベルの演習を行います。受講者は、カレッジ TOEIC 受験が義務付けられます。

また、3年次以降も TOEIC 受験対策の学習を希望する学生を対象に、申請により「特別課外活動」として単位認定される特別講座を開講する予定です。詳細は2年次後期の授業において連絡しますので、積極的に受講してください。

2. 英語科目の再履修について

「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」の単位未修得者(成績評価が「不可」の者)は、5講時開講の再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語 I B」「英語 II B」を対象とした再履修クラス、後期は「英語 I A」「英語 II A」を

対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスの受講ができない場合には、1～4 講時開講の各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスの受講はできませんので、各学科の正規クラスを受講してください。

スポーツ・健康系科目の履修要項

1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。
 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位
 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位
 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能）
 ※健康・運動科学実習Ⅰ・Ⅱ，スポーツ科学実習の初回講義は長町キャンパス体育館でガイダンスと受講スポーツ種目の選択を行うので，受講希望者は必ず出席し，担当教員の説明を受けてください。なお，初回講義を欠席した場合，希望のスポーツ種目を受講できない場合があります。
2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。
3. 教職免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。
4. 健康・運動科学実習Ⅰ・Ⅱおよびスポーツ科学実習は，種目によっては希望者が多数の場合に，施設・用具の関係で人数制限を行っています。
5. 健康・運動科学実習Ⅰ・Ⅱおよびスポーツ科学実習は個人票作成のため，初回講義時に顔写真（縦4.5cm，横3.5cm）を用意してください。

地域志向科目の履修要綱

本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり，特に地域志向を目指す教育を重要視しています。

地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。

1. 地域の課題を発見し，その解決策を探求でき，地域産業が求める知識や技術を有する人材
2. 地域企業の役割を理解し，地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材
3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材

本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り，地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示します。

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について（教養科目）

科目設定の趣旨

大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。

これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）、「特別課外活動Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）として認定しています。

詳細については、学科事務室、教務学生課もしくは長町校舎事務室に確認してください。

単位認定の対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は教務学生課又は長町校舎事務室に問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動（活動証明の得られるもの）

① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位

② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に教務学生課・長町キャンパス事務室にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ制度による活動

① 実働5日以上かつ実働合計40時間以上の活動 1単位

② 実働10日以上かつ実働合計80時間以上の活動 2単位

※インターンシップは就業体験が目的であり必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前にキャリアサポート課・長町キャンパス事務室及び学科教務委員に相談して下さい。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加

② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加

② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加

(Ⅶ) 高大連携講座 2単位

本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了
(ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く)

(Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位

◆建築学科

(1) 学外研修への参加

- ・学科企画の海外研修または国内研修等 2単位
- ・オープンデスク（夏季休業中などに民間の設計事務所のデスクを学生に開放する制度） 2単位
- ・建築施工管理実習 2単位
(いずれも実施計画書と実施報告書の提出が条件)

(2) 学科が実施する対外活動への参加

- ・東北建築フォーラム 2単位
- ・大学祭での建築設計展示（担当教員の評価提出が条件） 2単位
- ・その他（学科で承認したもの） 1～2単位

※研修・活動への参加の前に、建築学科教務委員に単位認定の対象となるかを確認すること。

単位認定および
評価の方法

(1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

(2) 申請は毎学期末（7月末，1月末）とします。

(3) 単位認定希望者は所定の申請用紙（八木山キャンパス教務学生課，長町キャンパス事務室に備付）に必要事項を記入して，次の書類を添付して八木山キャンパス教務学生課又は長町キャンパス事務室へ提出してください。

申請項目(I)の場合…資格取得，検定合格等を証明する書類

（但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）

申請項目(II)，(III)の場合

- ① 活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）
- ② 課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（A4判，1000字程度）
- ③ 団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

申請項目IV，V，VI，VIIの場合

- ① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，IVの場合は写しでも可）
- ② 活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（A4判，1,000字程度）

申請項目VIIの場合…修了証

(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い，教務委員長が単位認定します。

なお，成績は“認定”扱いとし，GPAと平均点には算入しません。

(5) 認定基準

認定は次の3つの観点から行います。

- ・活動における自主性，能動性の度合い
- ・活動内容の充実度
- ・活動の成果の大きさ

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

<p>学都仙台単位互換ネットワーク</p>	<p>本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しているため、本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができます。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。提供科目を開講している大学に通学して受講することになります。</p>
<p>参加大学</p>	<p>「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学習機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。</p> <p>各大学の募集要項、提供科目等は本学の八木山キャンパス教務学生課、長町キャンパス事務室で閲覧することができます。検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うことになるので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学開講科目の受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確かめた上で、下記の要領に基づいて八木山キャンパス教務学生課または長町キャンパス事務室で申請手続きを行ってください。</p>
<p>科目と対象</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学 石巻専修大学、尚綱学院大学、仙台北百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、放送大学、仙台青葉学院短期大学、宮城誠真短期大学（なお、本年度の募集を行わない大学もあるので事前に確認してください） 2. 他大学の募集要項、提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。 3. 対象者 本学に在学する1年生（後期のみ）、2、3年生、4年生（前期のみ） 4. 対象科目 基本的に、自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。 5. 進級、卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なるので、各学科の教育課程表を参照してください。
<p>出願期限</p>	<ol style="list-style-type: none"> 6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか、開講する大学によって異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイト記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に教務学生課または長町キャンパス事務室で確認してください。 7. 諸注意 出願において、本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので、事前にクラス担任、学科の教務委員と相談してください。 万一、途中で履修を取りやめるようなことがあると、受入大学に多大な迷惑をか

他学部教養科目
の履修

けます。無理の無い履修計画を立ててください。

ほとんどの大学で、自家用車での通学を認めていないので、通学にあたっては公共の交通機関を利用してください。

本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は、「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし、進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なるので、各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。

(本学生便覧の145ページを参照)。

※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは、この限りではありません。

建築学部

専門教育科目

履修ガイダンス

教育課程表・科目概要

《履修ガイダンス・教育課程表》

建築学科

1. カリキュラムの特徴

1～2年次	3年次	4年次
自らの「気づき」を生み出す2年間	将来の道しるべとなるコース選択	卒業研修を通して確かな人間力を形成
建築学に必要な基礎的な知識と技術を身につけます。建築学の知識がなくても、建築の面白さや世界の広さを実感できるカリキュラムを用意。建築学が包含する広く深い世界をさまざまな科目を通して学び、自分の興味や可能性を再発見できるように編成されています。講義に加え、演習、実験、設計など実践的なトレーニングを取り入れているため、理論的な思考力と表現力を総合的に身につけることができます。2年次までの必修科目で建築士試験受験資格取得に必要な条件が概ねクリアできるのも魅力です。	3年次は自らの興味や進路を決定する大事な時期。自分自身で履修モデルを設定して学習できるよう、選択性・柔軟性のあるカリキュラムを設けています。興味や特性に応じた2つの履修コースを設け、設計力、創造力、表現力を伸ばしたい人は、計画・設計・歴史系の科目を、理数的解析力、理論的思考力をより高めたい人は、構造・材料・環境系の科目をより重点的に履修できます。後期には研究室に配属され、卒業論文・卒業設計の基礎学習を行います。これまで学習した知識の定着を図りながら、卒業研修に必要な基礎力を身につけます。	3年次に選択した専門的なテーマをじっくり学びます。10名程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成。大学4年間の醍醐味であり、充実した時期が過ぎせませす。海外留学やフィールドワークなど、様々な活動参加のチャンスが増える時期でもあります。4年次は特に、自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。

2. キャリアガイダンス

社会人に必要な基礎力として、『建築学科10の学士力』（①多文化／多分野理解能力、②コミュニケーション能力、③プレゼンテーション能力、④タイムマネジメント能力、⑤論理的思考力、⑥自己理解力、⑦問題発見／解決能力、⑧企画力、⑨調査能力、⑩IT能力）を定め、建築学科で開講される全ての科目で、どの能力を伸ばすことを目指しているかシラバスで明記しています。

3. 卒業研修について

3年次後期から研究室に配属され、指導教員の下で卒業研修に取り組むこととなります。10人程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成です。研修を通して海外留学やフィールドワークなど、さまざまな活動に参加できるチャンスが増えるため、充実した時間を過ごすことができます。研修は自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切です。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。

最終的に、4年次の1月～2月までに研修の成果を卒業論文または卒業設計としてまとめ、その内容を発表することとなります。成績については、研修活動への取り組み姿勢、成果物や最終発表会での内容等を総合的に評価します。

4. 履修のためのガイド

1) 基本的留意事項

本来、学部で建築学を学ぶにあたっては、定められた最低単位数を得ることに専心したり、進級や卒業のみを目標にしたりするようなことがあってはいけません。建築の分野に自分の将来をかけ、夢を実現するためには、在学中に感性を磨き、建築に関する知識や素養をしっかりと身につけることは必須の条件です。また、プロフェッショナルとして大成するためには、さらに不断の努力と精進が必要です。そのような意味では、将来、建築の専門家を志すのであれば、その骨格を形成するために、学部で開講されている科目は全て修得するのが本来の姿です。その道筋を現実的な形で示したものが教育課程表（P. 179参照）です。表は開講科目を必修科目と選択科目に分けて開講時期ごとに構成したものであり、履修計画を立てるにあたって、履修の流れ図や進級・卒業に要する条件とともに、教育課程表の内容をよく理解しておく必要があります。各科目の詳細については、本書の科目解説に示されているので参照してください。

2) コース選択について

本学科では、3年次前期からコース分けを行います。コースは建築システムコースと建築デザインコースがあり、各々の特性に合ったコースを選択してください。

開講科目については各コース共通であるが、コースによって必修・選択の設定が異なる科目もあるので、本書の教育課程表でよく確認してください。

各コースの学習・教育目標は下記の通り。

- ・建築システムコースの学習・教育目標

理数的解析力、問題発見力、調査力を伸ばし、実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

- ・建築デザインコースの学習・教育目標

設計力、創造力、表現力を伸ばし、総合的な視点に立って建築空間を設計・提案することができる技術者を養成する。

Sコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

Sコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	4	6/17	29	-	39/50	39/50
2年次 下段：3年次進級条件	2	8/17	23	5/7	38/49	77/99
60単位以上						
必修4単位以上		必修36単位以上				
3年次 下段：4年次進級条件	-	6/21	21	8/18	35/60	112/159
96単位以上						
18単位以上		必修54単位以上 (建築学研修Iを含む)				
4年次 下段：卒業条件	-	2/2	6	6/13	14/21	126/180
24単位 (必修6単位含む)		100単位 (必修79単位含む)				
卒業までの総合計	6	22/57	79	19/38	126/180	
	28/63		98/117			

Dコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数/開講単位数」を示します）

Dコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	4	6/17	29	-	39/50	39/50
2年次 下段：3年次進級条件	2	8/17	23	5/7	38/49	77/99
60単位以上						
必修4単位以上		必修36単位以上				
3年次 下段：4年次進級条件	-	6/21	19	11/20	36/59	113/159
96単位以上						
18単位以上		必修54単位以上 (建築学研修Ⅰを含む)				
4年次 下段：卒業条件	-	2/2	6	5/13	13/21	126/180
24単位 (必修6単位含む)		100単位 (必修77単位含む)				
卒業までの総合計	6	22/57	77	21/40	126/180	
	28/63		98/117			

5. 環境教育について

建築の分野は、地球上の資源およびエネルギーを大量に消費することで成り立っている産業です。建設時だけでなく、竣工後も常にエネルギーを使用して快適な住空間を維持する必要があるなど、建築分野において環境教育は切り離すことはできません。具体的には、建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎的知識、また、建築外部空間や都市環境に関する基礎的知識を習得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解するため、以下のような講義が設定されています。

建築環境工学概論（1年後期）

熱・空気環境（2年前期）

音・光環境（2年後期）

建築設備システムおよび同演習（3年前期）

都市環境（3年後期）

6. 教職課程について

建築学科では、高等学校の「工業」の教育職員免許状を修得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

地域の活性化・地域安全を目指し、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けるために、地域志向科目を開講します。この科目では、仙台・宮城地域を中心とする課題を取り上げ、事例などを通して学んだことを実践することが可能になっています。

建築学科 専門教育科目の履修の流れ (建築システムコース)

建築学科 学習・教育目標	
実践的な技術に支えられた自信と柔軟な発想力で国際社会に貢献できる建築家および建築技術者を養成することを旨とし、一連の専門科目を通して以下に示す“10の学士力”を身につけられるように教育することを目標とする。	
①多文化／多分野理解能力	②コミュニケーション能力
③プレゼンテーション能力	④タイムマネジメント能力
⑤論理的思考力	⑥自己理解力
⑦問題発見／解決能力	⑧企画力
⑨調査能力	⑩IT能力

建築システムコース 学習・教育目標
理数的解析力、問題発見力、調査力を伸ばし、実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標	
-------------	--

建築学総合	数学や物理、建築に関する基礎知識を学び、法規や経済などの面から建築学各分野の統合能力を身につける。
-------	---

計画・設計	社会や地域の状況を理解しながら、建物の機能的要求や利用者の生活上の要求を充足するための計画理論と、設計するための手がかりとなり得る計画的知見を修得する。さらに、それを踏まえながら、創造的に建築空間を設計・提案することができるデザイン力とプレゼンテーション力を身につける。
-------	---

建築表現	建築分野におけるコンピュータ利用法と建築CADによる表現技術の基礎を習得する。
------	---

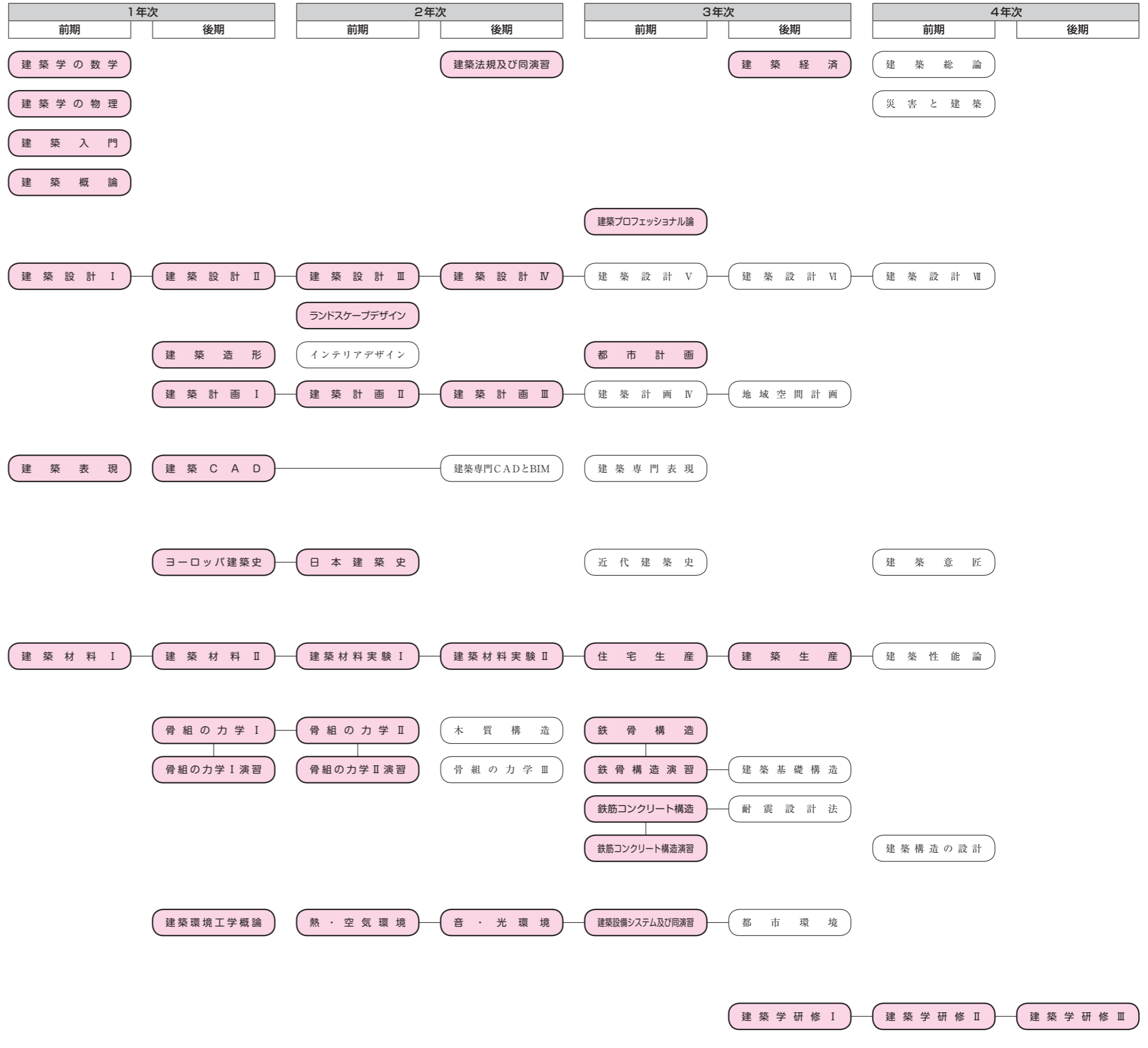
歴史・意匠	建築の歴史について、ヨーロッパと日本、明治以降の近代に分けて、主に様式史について学び、木の文化と石の文化についても考える。
-------	---

材料・生産	建築物を構成する構造材料や仕上材料についての基礎知識を習得後、それらを用いて実際に建築物を造り上げるために必要となる生産技術や生産管理技術について学ぶ。
-------	--

構造	建物の安全性確保や機能維持を実現するのに必要な力学の基礎知識を修得する。また、各種構造や構法の最新技術について学び、近年多様化しつつある建築構造設計の原理を理解することができる。
----	---

環境・設備	建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎知識を修得する。また、火災時の煙流動や延焼に対する備え、建築外部空間や都市環境に関する基礎知識を習得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解することができる。
-------	--

研修	卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に適用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。
----	--



建築学科 専門教育科目の履修の流れ (建築デザインコース)

建築学科 学習・教育目標	
実践的な技術に支えられた自信と柔軟な発想力で国際社会に貢献できる建築家および建築技術者を養成することを旨とし、一連の専門科目を通して以下に示す“10の学士力”を身につけられるように教育することを目標とする。	
①多文化／多分野理解能力	②コミュニケーション能力
③プレゼンテーション能力	④タイムマネジメント能力
⑤論理的思考力	⑥自己理解力
⑦問題発見／解決能力	⑧企画力
⑨調査能力	⑩IT能力

建築デザインコース 学習・教育目標
設計力、創造力、表現力を伸ばし、総合的な視点に立って建築空間を設計・提案することができる技術者を養成する。

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標	
-------------	--

建築学総合	数学や物理、建築に関する基礎知識を学び、法規や経済などの面から建築学各分野の統合能力を身につける。
-------	---

計画・設計	社会や地域の状況を理解しながら、建物の機能的要求や利用者の生活上の要求を充足するための計画理論と、設計するための手がかりとなり得る計画的知見を修得する。さらに、それらを踏まえながら、創造的に建築空間を設計・提案することができるデザイン力とプレゼンテーション力を身につける。
-------	--

建築表現	建築分野におけるコンピュータ利用法と建築CADによる表現技術の基礎を習得する。
------	---

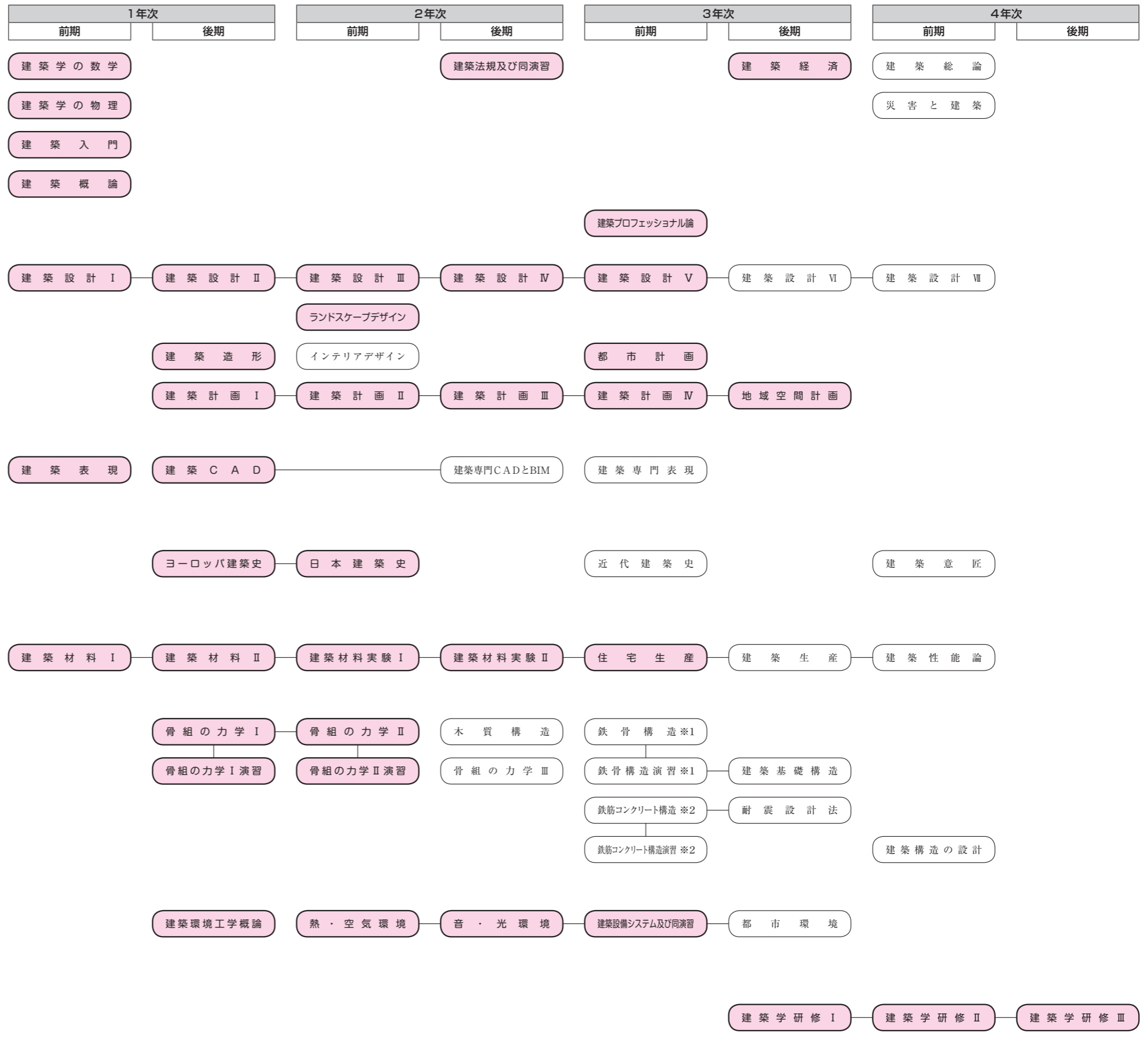
歴史	建築の歴史について、ヨーロッパと日本、明治以降の近代に分けて、主に様式史について学び、木の文化と石の文化についても考える。
----	---

材料・生産	建築物を構成する構造材料や仕上材料についての基礎知識を習得後、それらを用いて実際に建築物を造り上げるために必要となる生産技術や生産管理技術について学ぶ。
-------	--

構造	建物の安全性確保や機能維持を実現するのに必要な力学の基礎知識を修得する。また、各種構造や構法の最新技術について学び、近年多様化しつつある建築構造設計の原理を理解することができる。
----	---

環境・設備	建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎知識を修得する。また、火災時の煙流動や延焼に対する備え、建築外部空間や都市環境に関する基礎知識を習得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解することができる。
-------	--

研修	卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に適用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。
----	--



教育課程表における進級・卒業条件

建築学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	必修4単位以上	
専門教育科目	必修36単位以上	
計	全体として60単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	18単位以上	
専門教育科目	必修54単位以上 建築学研修Ⅰを含むこと	
計	全体として96単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24単位 必修6単位を含むこと	
専門教育科目	100単位 建築システムコース：必修79単位を含むこと 建築デザインコース：必修77単位を含むこと	建築デザインコース ：選択科目のうち「鉄筋コンクリート構造」および「鉄筋コンクリート構造演習」あるいは「鉄骨構造」および「鉄骨構造演習」の組み合わせどちらか一方を必ず修得すること
計	124単位	

教育課程表と学士力対応表

建築学科 教養教育科目

本学の学生が身につけるべき学士力		
①	知識と理解力	文化性, 人間性, 社会性を備えた科学力と専門能力
②	論理的思考と分析スキル	現象や結果に基づいて展開, 解析, 方向性を導く能力
③	協調性と適応力	集団の一員として状況を正しく理解して主体的に取り組む能力
④	コミュニケーションスキル	自己表現と相互理解の能力
⑤	課題発見とその解決能力	総合的能力を駆使して, 新しい現象・課題を発見し, その理解・解決ができる能力
⑥	国際理解力と語学力	地球的課題, 多様な文化, 価値観の違いを理解し, 国際的に通用するコミュニケーション能力

【教養教育】身につけるべき学士力		
①	コミュニケーション能力	言語の読解力, 言語による自己表現と相互理解の能力
②	批判的思考力	現代世界の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識
③	社会生活への適応力	精神的・身体的に健全であるための実践能力と知識
④	工学・建築学およびライフデザイン学を学ぶための基礎学力	数学, 自然科学, 経済学等の基礎知識

・単位数と学習時間（授業時間数及び自習時間数）

学習時間については学則第10条に以下の記載があります。（詳細は学生便覧P.141“単位制と授業時間について”参照）
 第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。

※ 本学では、1講時90分の授業が半期15週行われます。単位数は、1講時（＝1コマ：90分）の授業時間を2時間相当の学習時間とみなし、予習・復習の自習時間もあわせた時間で設定しています。

したがって、【教育課程表】の“各期の毎週時間数”には1コマ＝“2”とするみなしの授業時間が記載されています。

1単位の授業科目は、45時間の学習を必要とする内容をもって構成します。

【単位数と授業時間数・(みなしの)自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数	+	自習時間数	1回(週)当り学習時間
講義	2単位 (90時間)	1コマ/週 (計30時間)	+	60時間/15週	4 (時間)
演習・実習	1単位 (45時間)	1コマ/週 (計30時間)	+	15時間/15週	1 (時間)

シラバスにおける学習時間は以下のとおりです。

授業形態	単位数	週授業時間数	自習時間	1回(週)当り学習時間
講義	2単位 (90時間)	1コマ/週 (計30時間)	60時間	4 (時間)
演習・実習	1単位 (45時間)	1コマ/週 (計30時間)	15時間	1 (時間)
演習・実習	2単位 (90時間)	2コマ/週 (計60時間)	30時間	2 (時間)
演習・実習	3単位 (135時間)	3コマ/週 (計90時間)	45時間	3 (時間)
講義及び演習	3単位 (135時間)	2コマ/週 (計60時間)	75時間	5 (時間)

教育課程表と学士力対応表

建築学科 専門教育科目

本学の学生が身につけるべき学士力		
①	知識と理解力	文化性, 人間性, 社会性を備えた科学力と専門能力
②	論理的思考と分析スキル	現象や結果に基づいて展開, 解析, 方向性を導く能力
③	協調性と適応力	集団の一員として状況を正しく理解して主体的に取り組む能力
④	コミュニケーションスキル	自己表現と相互理解の能力
⑤	課題発見とその解決能力	総合的能力を駆使して, 新しい現象・課題を発見し, その理解・解決ができる能力
⑥	国際理解力と語学力	地球的課題, 多様な文化, 価値観の違いを理解し, 国際的に通用するコミュニケーション能力

【建築学科専門教育】身につけるべき学士力		
①	多文化・多分野理解能力	⑥ 自己理解力
②	コミュニケーション能力	⑦ 問題発見能力
③	プレゼンテーション能力	⑧ 企画力
④	タイムマネジメント能力	⑨ 調査能力
⑤	論理的思考力	⑩ I T能力

・単位数と学習時間（授業時間数及び自習時間数）

学習時間については学則第10条に以下の記載があります。（詳細は学生便覧P.141“単位制と授業時間について”参照）
 第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業設計等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。

※ 本学では、1講時90分の授業が半期15週行われます。単位数は、1講時（＝1コマ：90分）の授業時間を2時間相当の学習時間とみなし、予習・復習の自習時間もあわせた時間で設定しています。

したがって、【教育課程表】の“各期の毎週時間数”には1コマ＝“2”とするみなしの授業時間が記載されています。

1単位の授業科目は、45時間の学習を必要とする内容をもって構成します。

【単位数と授業時間数・(みなしの)自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数	+	自習時間数	1回(週)当り学習時間
講義	2単位 (90時間)	1コマ/週 (計30時間)	+	60時間/15週	4 (時間)
演習・実習	1単位 (45時間)	1コマ/週 (計30時間)	+	15時間/15週	1 (時間)

シラバスにおける学習時間は以下のとおりです。

授業形態	単位数	週授業時間数	自習時間	1回(週)当り学習時間
講義	2単位 (90時間)	1コマ/週 (計30時間)	60時間	4 (時間)
演習・実習	1単位 (45時間)	1コマ/週 (計30時間)	15時間	1 (時間)
演習・実習	2単位 (90時間)	2コマ/週 (計60時間)	30時間	2 (時間)
演習・実習	3単位 (135時間)	3コマ/週 (計90時間)	45時間	3 (時間)
講義及び演習	3単位 (135時間)	2コマ/週 (計60時間)	75時間	5 (時間)

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 段目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
A	A	A	103		
AA-A-103					

※建築学部建築学科「建築入門」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
A	建築学部

2 列目 (学科・科目区分)	
A	建築学科・専門教育科目

3 段目 (分野)		
A	建築	建築学総合
B		計画・設計
C		建築表現
D		歴史・意匠
E		材料・生産
F		構造
G		環境・設備
H		研修
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
AA-A-101	建築学の数学	2							
AA-A-102	建築学の物理	2							
AA-A-103	建築入門	2							
AA-C-106	建築表現	2							
AA-B-105	建築設計 I	4							
AA-E-107	建築材料 I	2							
AA-A-104	建築概論	2							
AA-G-116	建築環境工学概論		2						
AA-C-111	建築 C A D		4						
AA-B-109	建築計画 I		2						
AA-D-112	ヨーロッパ建築史		2						
AA-B-110	建築造形		2						
AA-B-108	建築設計 II		4						
AA-E-113	建築材料 II		2						
AA-F-114	骨組の力学 I		2						
AA-F-115	骨組の力学 I 演習		2						
AA-B-202	ランドスケープデザイン			2					
AA-B-201	建築設計 III			4					
AA-B-204	建築計画 II			2					
AA-D-205	日本建築史			2					
AA-E-206	建築材料実験 I			2					
AA-G-209	熱・空気環境			2					
AA-F-207	骨組の力学 II			2					
AA-F-208	骨組の力学 II 演習			2					
AA-B-203	インテリアデザイン			2					
AA-B-211	建築設計 IV				4				
AA-B-212	建築計画 III				2				
AA-E-214	建築材料実験 II				2				
AA-G-217	音・光環境				2				
AA-A-210	建築法規及び同演習				4				
AA-F-215	木質構造				2				
AA-C-213	建築専門 C A D と B I M				2				
AA-F-216	骨組の力学 III				2				
AA-E-307	住宅生産					2			
AA-F-310	鉄筋コンクリート構造					2			
AA-F-311	鉄筋コンクリート構造演習					2			
AA-F-308	鉄骨構造					2			
AA-F-309	鉄骨構造演習					2			
AA-G-312	建築設備システム及び同演習					4			
AA-A-301	建築プロフェッショナル論					2			
AA-B-303	都市計画					2			
AA-B-302	建築設計 V					4			
AA-B-304	建築計画 IV					2			
AA-D-306	近代建築史					2			
AA-C-305	建築専門表現					2			
AA-A-313	建築経済						2		
AA-H-320	建築学研修 I						4		
AA-B-315	地域空間計画						2		
AA-E-316	建築生産						2		
AA-F-317	建築基礎構造						2		
AA-G-319	都市環境						2		
AA-B-314	建築設計 VI						6		
AA-F-318	耐震設計法						2		
AA-H-407	建築学研修 II							4	
AA-A-401	建築総論							2	
AA-A-402	災害と建築							2	
AA-B-403	建築設計 VII							6	
AA-F-406	建築構造の設計							4	
AA-E-405	建築性能論							2	
AA-D-404	建築意匠							2	
AA-H-408	建築学研修 III								8
AA-X-001	建築インターンシップ I								
AA-X-002	建築インターンシップ II								
AA-X-003	建築インターンシップ III								
AA-X-004	建築インターンシップ IV								
AA-X-005	建築学特別課外活動 I								
AA-X-006	建築学特別課外活動 II								
AA-X-007	建築学特別課外活動 III								
AA-X-008	他学科開講科目群								
AA-X-009	他大学開講科目群								

1 建築学の数学 AAA101

Mathematics in Architecture

必修 2単位 1年前期

授業の概要：建築学科専門科目の履修に必要な数学の基礎に関する講義であり、予備知識を前提とせずに初歩から行う。講義は次のように進めていく。基本となる数と式、因数分解、分数式及び無理数の計算を説明し、関数（1次関数、2次関数、指数関数及び対数関数）とグラフ、そして不等式と領域について講義する。更に三角関数の概念や計算法、ベクトル及び内積を含めたベクトル計算、行列と逆行列の考え方と計算、関数の極限について講義を行い、最後に微分概念及び計算について説明し、不定積分と定積分の概念及び計算法について講義する。毎回小テストを課し、講義内容の理解を深める。

授業の達成目標：数と式などの基本的な取り扱い、並びに、関数、ベクトル、行列、微分積分の基本概念とその計算法を身につける。

3 建築入門 AAA103

Introduction to the Study of Architecture

必修 2単位 1年前期

授業の概要：大学で学ぶためのスタディスキルや、建築学の全体像について理解を深める。グループ講義と実習を織り交ぜる。建築学への興味・関心を高めるための導入教育である。前半7回は、大学で学ぶための基本技術について講義、実習を行う。そのうち2回は、新入生ワークショップと連動した実習も予定する。後半7回は、10人前後のグループに分かれ各系（分野）でグループ講義を行う。グループディスカッション、グループワークなどを織り交ぜての講義となる。

（オムニバス方式／全15回）

授業の達成目標：1. 大学で学ぶため方法を次の点から理解する。

・大学生活（自己目標・大学生活・クラブ活動・アルバイト・友人関係）

・大学とは何か（専門分野・単位・評価・研究・大学教員）

・大学での学び方（講義・実験・実習・調査）

・学ぶための基本技術（読む・書く・思考する・伝える）

2. 建築学の各分野（専門領域）の基礎を理解し、実習・演習等を通して建築学への興味を深め、学ぶ意欲を高める。

5 建築設計 I AAB105

Architectural Design I

必修 2単位 1年前期

授業の概要：建築設計を学び始めるための最も基礎的な技術を学ぶ。具体的には建築図面の手描きトレース及び建築模型の作成などの演習を通して基礎技術を習得する。自ら建築を構想し設計するために必要な諸技術（製図・模型製作に必要な用具類、図面の読み方、線の使い分けとその意味、手描き図面の描き方や描く際の注意事項、図面の表現方法、建築模型の作り方など）を段階的に解説する。これらの作業を通して、二次元図面と三次元空間の関係を体得できることを到達目標とする。

授業の達成目標：建築製図に必要な製図記号の意味を理解し、演習を通して製図用具の合理的な使い方を実習する。各種図面の構成と役割を理解し、平面から立体をイメージし、さらに立体を平面として表現する技術を身につける。

2 建築学の物理 AAA102

Physics in Architecture

必修 2単位 1年前期

授業の概要：建築学科の専門科目の履修に必要な物理学、特に力学に関する講義である。以下のような3部分に分かれている。まずは、剛体の力学であり、力及びモーメントのつり合い、等速運動及び等加速度運動、外力や摩擦抵抗を伴う運動に関して講義する。次にはエネルギーに関するものであり、仕事、仕事の原理、運動・位置エネルギー及び保存則に関して講義を行う。最後には、波に関するものであり、波の進み方、波のエネルギー及び反射など、更に音波についても講義をする。毎回小テストを課し、講義内容の理解を深める。

授業の達成目標：1. 力などそれぞれの物理量の単位や次元を理解する。

2. 力のモーメントを理解し、剛体の釣り合いに関する基本的問題を定量的に解けるようになる。

3. 物体の位置、速度、加速度の関係を理解する。

4. 等速運動と等加速度運動について定量的に理解する。

5. 運動の法則を理解し、それを適用して、物体に働く力や物体の運動を定量的に決定できるようになる。

6. 力、仕事、エネルギーについて定量的に理解する。

7. 熱と温度の違い、気体の持つエネルギーについて理解する。

8. 波の表わす諸量の意味及び波のエネルギーについて理解する。

9. 音の基本的な性質及び弦・気柱の振動について理解する。

4 建築表現 AAC106

Architectural Presentation

必修 1単位 1年前期

授業の概要：建築設計においては、建築空間を構想し、設計図を作成し、魅力的なプレゼンテーションを行う一連のプロセスがある。本演習は、特に、建築設計における初期段階及び最終段階に必要な諸表現技術について学ぶ。建築を表現するためには手描きスケッチからデジタル表現まで様々な方法があり、その表現方法の広がりや全様を理解するとともに、各表現方法のうちいくつかについて、実際に取り組むことで具体的な技術を体得する。「建築設計 I」と関連させ、以後の設計演習にも活用できる基礎的内容とする。

授業の達成目標：「初の設計課題」の参考となるような講義を目指している。とくに、①3次元の空間をつくるための手掛かりとして、②建築設計の基礎用語の復習として、③芸術ではない建築を伝えるための所作の習得に、どのような手順・方法があるのかを基礎的な講義と簡易演習により示す。

6 建築材料 I AAE107

Materials for Buildings I

必修 2単位 1年前期

授業の概要：建築物は多種多様な材料によって構成されている。質の高い建築をつくるためには、建築物全体そして空間構成部位に求められる性能・機能に対して、建築材料の特性を的確に理解した上で、それらを適切に組み合わせることが必要である。建築材料 I では、建築物に作用する様々な荷重・外力を直接負担することになる「構造材料」のうち、「コンクリート」と「鉄鋼」を中心に、それぞれの材料の製造法、基本的物性、力学的特性、建築物における利用例などについて学ぶ。

授業の達成目標：建築構造材料として用いられる「コンクリート」および「鉄鋼」について、その性質や特徴、使われ方などに関する基礎的な知識を習得する。

7 建築概論 AAA104

Introduction to Architecture

必修 2単位 1年前期

授業の概要：各分野の知識を複数の教員がオムニバス形式で講義する。設計分野は、設計プロセス、設計図書のみならず役割やコミュニケーションの重要性、各専門分野の統合としての建築設計の特徴を講義する。構造分野は、さまざまな構造形式を部材の構成や接合形式による構造システムとして捉え、建築の主体構造とその安全性について体系的に講義する。環境分野は、自然環境要素及び快適な環境創出のための建築設備の重要性、さらには地球環境的視点からのエネルギーと建築の関係性について講義する。生産分野は、建物の生産プロセスについて理解し、長期的に適切に使い続けるための維持管理の重要性やそのための技術について講義する。都市計画分野は、建物を単体として捉えるのではなく、地域的・都市的な拡がりのある視点から捉え、地域特性を意識したまちづくりや都市計画の重要性を講義する。

授業の達成目標：建物を建てるプロセスの基本的な理解と、その際の設計の役割、構造の役割を概観し、環境、生産、都市・地域的な観点を合わせ持つことを理解する。建築学の特徴と以降の講義や設計演習において必要となる建築学の基礎的な知識と技術の修得を目指す。

9 建築CAD AAC111

Architectural CAD

必修 2単位 1年後期

授業の概要：建築分野におけるデジタル技術の概要を知るとともに、情報処理の基本的概念や情報倫理等を実践的に学ぶ。主に、二次元の建築CADソフトを使用しながらその操作法を習熟する。普段から接することのできる具体的な建築物を共通の事例課題とする。事例課題における意匠、構造、設備など各分野の基本的な二次元設計図をトレースすることから始め、設計図の基本的な描き方を理解する。建築物における各分野の関わり、建築物を構成するために必要な図面内容についても理解する目的がある。最終的には自ら必要な設計図を描くことができるようになることを到達目標とする。各設計演習と連動する基本的な演習として位置づける。

授業の達成目標：建築分野において必要不可欠なコンピュータの利用技術を習得する。また、情報処理の基礎的な概念や情報倫理について理解する。

11 ヨーロッパ建築史 AAD112

History of European Architecture

必修 2単位 1年後期

授業の概要：「建築」や「建築家」という概念をうみだしたヨーロッパを題材として、長い歴史がつくりあげた文化・芸術としての建築を理解する素養を身に付ける。はじめに美術・建築における様式の考え方を概観したうえで、各回ではその具体的な流れを古代（ギリシア・ローマ）、中世（初期キリスト教建築・ロマネスク・ゴシック）、近世（ルネサンス・マニエリスム・バロック・リバイバル建築）と時代を追って講義する。各時代・各地域を代表する建築物の意匠や構造、材料の実例に即して解説を進めていくことで、技術者としての建築読解力を養っていく。さらに、その建築がつくりだされた背景として、風土、社会、思想、技術革新などのトピックスも織り交ぜ、建築を多角的かつ総合的に評価・分析する方法を学習する。

授業の達成目標：ヨーロッパにおける建築様式の変遷と代表的な建築作品を学び、西洋文化が築き上げた総合芸術としての建築を深く理解する。また、様式名やオーダーといった西洋建築の概念・部材名を幅広く習得し、建築を読み解く基礎的な素養を身につける。

8 建築環境工学概論 AAG116

Architectural Environmental Engineering

必修 2単位 1年後期

授業の概要：快適でかつ省エネルギー・低炭素が求められている現代社会背景から建築を読み解き、2年次以降に開講される専門必修科目（「熱・空気環境」、「音・光環境」、「建築設備システム及び同演習」）における基礎的用語とその概念を学ぶ。その上で、今後目指すべきゼロ・エネルギー・ビル、ゼロ・エネルギー・ハウスを事例に、建築環境工学的視点すなわち熱・空気・音・光・設備の各視点から実例を概観することにより、建築環境工学の基礎と実用を学ぶ。

授業の達成目標：本科目は、建築士資格試験・建築および管工事施工管理技士資格試験における必須の分野である。良好で安全な建築室内環境の形成と低炭素を両立させるため、建築には様々な技術が実装されている。講義を通じて、それらの技術を理解するための基礎用語と概念を理解することを目標とする。

10 建築計画 I AAB109

Architectural Planning I

必修 2単位 1年後期

授業の概要：建築を取り巻く人間とその生活、地域社会（主に仙台）、環境などとの関わりを把握し、建築・設計を支えるさまざまな要素についての理解を深め、住宅を中心に建築設計・計画の基礎的な知識を学ぶ。具体的には、住宅の近代化、居住の多様化、建築家の住宅作品、建築計画と都市・環境問題及び住宅政策の関係、空家活用等を題材にし、戦後の居住ニーズと住まい空間の変容の関係を理解しながら、現代、将来に求められる居住空間を創造する力を養う。

授業の達成目標：建築の計画、設計に関わるさまざまな基礎的事項や建築要素を理解し、説明できるようになること。また、人間の生活と建築空間、生活環境、地域社会（主に仙台）との関わりを把握して、建築設計における思考方法の基本を理解すること。

12 建築造形 AAB110

Architectural Shape

必修 1単位 1年後期

授業の概要：建築設計においては、身体的スケールの把握が最も重要な要素の一つであり、優れた建築には必ずこの身体的スケールが反映されている。本演習ではこのスケールを体得し、建築空間と関連づけられることが到達目標である。具体的には、基本的な単位の理解、基本的図形の形態的な特徴の理解から、それら図形を組み合わせた配列・レイアウトを理解すること、組織化された形態の工作体験、さらには、それら図形を立体造形的表現にまで展開させることで、段階的な理解と体得が可能なものとする。デジタルデータ・デジタル材料加工機器による諸技術を理解し、表現の幅を広げる。「建築設計Ⅱ」と関連させ、以後の設計演習にも活用できる内容とする。

授業の達成目標：建築空間を設計する基礎となる、スケール・配列・空間相互関係について学ぶ。概念の講義を行ったあと、小演習を行うことで設計に応用できるスケール感や図形や空間の操作方法を理解する。

13 建築設計Ⅱ AAB108

Architectural Design II

必修 2単位 1年後期

授業の概要：建築設計における基礎技術を習得したうえで取り組む設計演習である。自ら空間を構想し、図面や模型で表現することで、建築空間における発想力や想像力の萌芽を促す。課題は、2段階構成とし、前半においては与えられた単位空間をもとに、その内部空間や外部空間の設計を行い、身体感覚を生かしつつ建築の形態について考え表現する課題とする。後半では、単純な機能を持つ小空間の設計から、機能と空間の関係について考え表現できることを目指す。空間体験を伴った身体的スケールの空間設計とその図面表現を習得する。並行して開講される「建築計画Ⅰ（講義）」とも連動した内容とする。

授業の達成目標：建築の計画および設計・デザインの思考方法および作業の基本手順を理解した上で、東北地域での小規模な建築空間の計画・設計の実践を通して、計画・設計および図面作成、さらにはプレゼンテーションの基礎を学ぶことを目標とする。各自で創造して計画・設計する最初の課題であることから、基本をおさえながらも空間づくり、空間創造が楽しめるような内容および指導をする。また、スタディ段階から積極的に模型づくりを行いながら、宮城県内の地域特性をふまえた空間を検討する設計作業の進め方を身につける。

15 骨組の力学Ⅰ AAF114

Frame Analysis I

必修 2単位 1年後期

授業の概要：建築物は、風や地震などの外力を受けた際にも、人的及び物的被害が生じないよう十分な安全性を確保することが求められる。本講義では、外力が建築骨組の各部におよぼす影響について理解し、安全・安心な建物を設計するために必要となる力学的な基礎知識の修得を目指す。具体的には、力の釣り合い条件に基づいた梁、静定ラーメン、及び静定トラス構造の反力と応力の基本的な知識を学ぶ。また、骨組の安定・不安定、部材の断面の性質について解説する。

授業の達成目標：建築骨組の力学的関係を理解するために必要な力の原則を知り、静定構造の梁、ラーメン、トラスの反力と応力を求める応用問題が解けることを目標とする。

17 ランドスケープデザイン AAB202

Landscape Design

必修 1単位 2年前期

授業の概要：模型、スケッチ、図面等を用いたアーバンデザイン及びランドスケープデザインの基本的な素養を習得する。たとえば、住宅（建物）のエクステリア・室内のアトリウム・屋上緑化などの検討に加え、敷地から町に広がる周辺環境の考察へと繋がる見識の習得を目指す。なお、同時期に開講される「建築設計Ⅲ」と関連させ、以後の設計演習に活用できる内容とする。なお、各演習の中では地域に現存する歴史的環境・文化的資源の抽出を行い、その価値について十分配慮できるようリテラシーを養う。具体的には、東北・宮城・仙台など地元地域の空間構成への理解を深めるべく、地域の歴史・文化的価値についての見方も習得できるようにすることを目指す。

授業の達成目標：建築環境（ランドスケープ）を形成する諸要素を表現する手法を理解する。身体的スケールから都市や地域スケールまでを設定し、建築を形成する空間的要素の捉え方や調査方法、記述表記方法からそれら諸要素を総合的に表現する手法について体得する。

14 建築材料Ⅱ AAE113

Materials for Buildings II

必修 2単位 1年後期

授業の概要：建築物は多種多様な材料によって構成されている。質の高い建築をつくるためには、建築物全体そして空間構成部位に求められる性能・機能に対して、建築材料の特性を的確に理解した上で、それらを適切に組み合わせることが必要である。「建築材料Ⅱ」では、建築物の骨組みを構成する「木材・木質材料」、内装や外装などを構成する「仕上材料」、「機能性材料」に焦点を当て、各部位に用いられる代表的な材料の特性を理解するとともに、材料と建築空間との係わり、さらには資源・環境との係わりなどについて学ぶ。

授業の達成目標：建築物の部位を構成する木材・木質材料、仕上材料ならびに機能性材料について、その使われ方や材料としての性質および特徴などに関する基礎的な知識を習得する。

16 骨組の力学Ⅰ 演習 AAF115

Exercises of Frame Analysis I

必修 1単位 1年後期

授業の概要：担当教員が、構造設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。

授業の達成目標：建築物は、風や地震などの外力を受けた際にも、人的及び物的被害が生じないよう十分な安全性を確保することが求められる。本講義では、「骨組の力学Ⅰ」同様、外力が建築骨組の各部におよぼす影響について理解し、安全・安心な建物を設計するために必要となる力学的な基礎知識の修得を目指す。具体的には、「骨組の力学Ⅰ」で対象とした演習問題を繰り返し解くことにより、理論をより深く理解すること、また、授業で学んだ解法を各種構造に応用できる能力を身に付けることを目標とする。

18 建築設計Ⅲ AAB201

Architectural Design III

必修 2単位 2年前期

授業の概要：人間にとって欠くことのできない空間として居住空間がある。本演習では単体の居住空間（住宅など）や集合的な居住空間（寮施設や集合住宅など）を課題とし、住まいの空間構成、複数の住まいが集合する際の集合原理やその空間構成について実践的に学ぶ。演習を通して基本的な設計プロセスを学ぶ。課題分析から、資料収集、構想の具体化、設計図作成、プレゼンテーションまでの一連の作業を体得する。並行して開講される「建築計画Ⅱ（講義）」、「インテリアデザイン（講義）」や「ランドスケープデザイン（演習）」とも関連させ、建築と建築内外の空間を連続的に発想できること、それらを設計図面として表現できることを目標とする。

授業の達成目標：2つの住宅の設計課題を通して、身近な空間のスケール感を養うとともに、設計に必要な情報の収集、発想具現化の方法を学ぶ。建物の配置計画、平面計画、立・断面計画、空間に対応する架構方法について適切に判断する方法を学ぶ。敷地環境（仙台市内）と建築および地域の関係についても学ぶ。

19 建築計画Ⅱ AAB204

Architectural Planning II

必修 2単位 2年前期

授業の概要：「建築計画Ⅰ」で学んだ内容をベースに、建築空間を人々の日常生活との関係で見えていく。特に本講義では、現代日本の地域的な住居の特質とその変容を追いながら、地域に根差した集合体としての住生活の見方、住要求のとらえ方、その建築化などについて講義する。具体的には、同潤会アパート、晴海高層アパート、広島基町高層住宅、タウンハウス、街区型集合住宅、コーポラティブハウス等、戦前からの集合住宅計画と居住ニーズの変容の関係を理解しながら、現代、将来に求められる集住空間を創造する力を養う。

授業の達成目標：現代の日本の住居がどのような特質をもっており、それが戦後の社会（首都圏および仙台）の動きとどのように関係していたのか、現在どう変わろうとしているのかを地域（東北・宮城）の特性をふまえて理解し、説明できるようになること。それに加え、住居計画をする上で必要な基礎的概念および技術を理解し、身につけること。

21 建築材料実験Ⅰ AAE206

Experiments in Building Materials I

必修 1単位 2年前期

授業の概要：「建築材料Ⅰ・Ⅱ」で学んだコンクリート、鋼材、木材を対象として、これら構造材料に求められている「安全性に係わる性質（強度・弾性性状等）」について、所定の材料試験を実際に行いながら、変形や破壊の挙動などを含めた基礎物性について経験的に学ぶ。コンクリートについては、調合設計から練混ぜ、試験体の製作といった一連の工程を通じて、ものをつくり、それを評価することを体験する。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。

授業の達成目標：建築物の構造材料として用いられるコンクリート・木材・鋼材の基本的な性質を経験的に理解する。また、各材料の試験方法及びデータのまとめ方を習得する。

23 骨組の力学Ⅱ AAF207

Frame Analysis II

必修 2単位 2年前期

授業の概要：「骨組の力学Ⅰ」で学習した応力図（軸力図、せん断力図、モーメント図）に基づき、微小断面上の応力、いわゆる応力度の求め方、変形計算および応力法による不静定構造物の解析法の基礎に関する講義である。断面の図心、断面1次及び2次モーメントの計算をベースに、断面上に分布する垂直応力度や、縁応力度、せん断応力度の概念と計算法、特に梁や簡単な骨組の変形や変形角を計算するためのモールの定理や、不静定構造物のための応力法などについて講義する。

授業の達成目標：微小断面上の応力度の求め方、変形計算および応力法による不静定構造物の解析法に関する応用問題、断面の図心、断面1次および2次モーメントの計算に基づいた垂直応力度や、縁応力度、せん断応力度の概念を理解することを目標とする。また、骨組の変形や変形角を計算するためのモールの定理、不静定構造物のための応力法について理解する。

20 日本建築史 AAD205

History of Japanese Architecture

必修 2単位 2年前期

授業の概要：わが国が培ってきた伝統建築の世界を学ぶことで、歴史文化に配慮した建築技術者としての能力を身に付ける。講義では、先史・古代から中世、近世にいたる日本建築の歴史について時代を追って解説する。取り上げるジャンルを寺院、神社、宮殿、町家、農家、城郭、茶室、和風住宅など幅広く設定することで、日本の伝統建築の特色である多彩な様式美を学ぶ。加えて、代表的な歴史的建造物の意匠や構造、材料、施工法、ディテールなどの技術的実例を豊富に提示することで、建築技術者として必要な木造建築の知識についても理解を深めていく。現在に継承されている伝統素材や職人技法に関するトピックスも織り交ぜ、木造建築の設計や歴史的建造物の保存修復にも役立つ内容とする。

授業の達成目標：日本建築の歴史の変遷や代表的な歴史的建造物の知識を習得する。それらをうみだした風土、伝統技法、美意識、生産体制や社会的背景などもあわせて学習し、建築の歴史・文化的価値を幅広く読解する能力を養う。

22 熱・空気環境 AAG209

Heat and Air in Environmental Planning

必修 2単位 2年前期

授業の概要：良い建築空間を形成するためには、地域の自然環境を理解し、利用または制御して、安全で快適そして省エネルギーな生活空間を形成するための専門知識と技術が必要である。本講義は、1年次に開講される「建築環境工学概論」を踏まえ、建築における熱・空気環境の形成に関わる課題を取り上げ、その解決方法・建築への具体化等の基礎理論及び応用技術について学ぶ。また講義各回で予復習のための演習課題を課す。建築屋内空間に影響する東北地方の地域気候情報等に基づく各種調査や計算演習等に主体的に取り組むことにより、熱・空気環境にかかわる基礎理論と応用技術について理解を深める。

授業の達成目標：本科目は、建築士資格試験・建築および管工事施工管理技士資格試験における必須の分野である。良好で安全な熱・空気環境の形成と省エネルギーを両立させるのため、建築には様々な技術が実装されている。講義および予復習課題を通じて、それらの技術を理解するための基礎理論を理解し、応用することが出来る能力を修得することを目標とする。

24 骨組の力学Ⅱ演習 AAF208

Exercises of Frame Analysis II

必修 1単位 2年前期

授業の概要：「骨組の力学Ⅰ」で学習した応力図（軸力図、せん断力図、モーメント図）に基づき、微小断面上の応力いわゆる応力度の求め方、変形計算および応力法による不静定構造物の解析法の基礎に関する講義である。断面の図心、断面1次及び2次モーメントの計算をベースに、断面上に分布する垂直応力度や、縁応力度及びせん断応力度の概念及び計算法、そして、特に梁及び簡単な骨組構造の変形や変形角を計算するためのモールの定理及び積分法、更に、不静定構造物のための応力法及びその計算法などについて演習問題を通して理解を深める。演習問題は講義時間内に回答して提出する。

授業の達成目標：微小断面上の応力度の求め方、変形計算および応力法による不静定構造物の解析法に関する応用問題、断面の図心、断面1次および2次モーメントの計算に基づいた垂直応力度や、縁応力度、せん断応力度の概念、骨組の変形や変形角を計算するためのモールの定理、不静定構造物のための応力法などを修得し、応用問題の回答力を身につけることを目標とする。

25 インテリアデザイン AAB203

Interior Design

選択 2単位 2年前期

授業の概要：以下の5編で構成する。

1) 歴史編：インテリアデザインの発生から近現代の日本／西洋の住まい・インテリアまで、その変遷過程を概説する。2) デザイン原論編：美しく快適な環境をデザインするための造形原論の要点を概説する。3) 人間工学編：住まいやインテリアの各種要素の規模形態を導出する人間工学と人体寸法、および安全性や空間の心理、形・色・テクスチャーについて解説する。4) エレメント編：家具、テキスタイル、照明、素材と仕上について解説する。5) 材料構成編：インテリアの材料と構成について解説する。

授業の達成目標：インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、生活する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これらを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を修得することをめざす。

27 建築計画Ⅲ AAB212

Architectural Planning Ⅲ

必修 2単位 2年後期

授業の概要：各種の施設計画（建築計画）を扱う。講義では主に図書館、展示施設、医療施設、事務所および商業建築、劇場ホール等の地域施設を取り上げ、それら建築の特徴と計画上の課題を解説する。仙台・宮城・東北地方ほか、国内外の多くの実例を通して、各施設を取り巻く社会的・文化的な背景、各施設を支える制度、及び各施設における具体的な生活やプログラムを解説しながら進める。現在の施設のあり方を理解した上で、今後の施設、またわれわれの地域・生活環境のあり方についても考えられるように意識付けを行う。

授業の達成目標：私たちの地域生活を支える各種地域施設の役割を理解するとともに、それらの計画にあたっての基礎的な考え方を把握する。事例作品を通して計画上のポイントを理解するとともに、各地域施設の計画において関わるキーワード、計画・設計にあたっての基礎的事項を理解し、設計につながる基礎知識の修得を目指す。仙台・宮城・東北地方の地域社会や地域生活と施設・建築との関わりを学ぶ。

29 音・光環境 AAG217

Sound and Light in Environmental Planning

必修 2単位 2年後期

授業の概要：良き建築空間を形成するためには、地域の自然環境を理解し、利用または制御して、安全で快適そして省エネルギーな生活空間を形成するための専門知識と技術が必要である。本講義は、1年次に開講される「建築環境工学概論」を踏まえ、建築における音・光環境の形成に関わる課題を取り上げ、その解決方法・建築への具体化等の基礎理論及び応用技術について学ぶ。また講義各回で予復習のための演習課題を課す。建築屋内空間に影響する東北地方の地域気候情報等に基づく各種調査や計算演習等に主体的に取り組むことにより、音・光環境にかかわる基礎理論と応用技術について理解を深める。

授業の達成目標：建物は、人の生活と生産活動の「場」を提供する。円滑にこれを行うためにはその空間に即した環境を整えることが重要で、建築には様々な技術が必要となる。本科目は「音・光環境」を対象にそれらの技術を理解するための基礎理論を学び、応用することができる能力を修得することを目的とする。

26 建築設計Ⅳ AAB211

Architectural Design Ⅳ

必修 2単位 2年後期

授業の概要：人間の生活に関わりの深い基本的な諸施設及び小規模交流施設等（公共施設、商業施設、住宅など）の設計演習を通し、建築と社会の関係や広がりについて考察し、建築設計に反映させることを目標とする。また、機能的な建築と周辺環境とのよりよい関係形成、公共的建築空間が生みだす地域の連続性について気づき、発想できること、さらには法規等による基本的な規定を反映させ安全性を確保した建築物を設計し、図面として表現できることを目標とする。並行して開講される「建築計画Ⅲ」や「建築法規」とも連動させた課題内容とする。

授業の達成目標：人間の生活に関わりの深い基本的な諸施設及び小規模交流施設等の建築物の設計を行う。機能に応じた空間構成について、利用者、事業者のニーズ等から理解し、デザイン、構造などを考慮して設計する。設計に関わるゾーニング計画、配置計画、平面計画、立・断面計画、意匠など規模や構造に応じた適切な計画・設計ができるようになり、図面として表現できるようになることを目標とする。また、建物の外部空間の構成、ランドスケープや植栽、広場などの概念を理解するとともに、空間の規模、機能に対応する架構方法について適切に判断する方法を学ぶ。2つの課題を通して、対象となる仙台的敷地周辺の地域特性を理解し、ゾーニングや動線、敷地周辺の環境などの考え方を学び、それを具体的に説明できる効果的な表現方法を習得する。

28 建築材料実験Ⅱ AAE214

Experiments in Finishing Materials Ⅱ

必修 1単位 2年後期

授業の概要：「建築材料Ⅱ」で学んだ各種ボード類を対象として、建築仕上に求められている「曲げ強度」「耐水性」「難燃性」「耐衝撃性」について、所定の材料試験を実際に行いながら、基礎的な試験方法と各種物性について経験的に学ぶ。主に住宅の仕上材料あるいは下地材料として用いられている合板や石膏ボードなどのボード類を対象として、荷重・外力だけではなく水や火といった作用因子に対する試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を実践的に学ぶ。

授業の達成目標：建築物の仕上材料として用いられているボード類の基本的な性質を経験的に理解する。また、各ボードの試験方法及びデータのまとめ方を習得する。

30 建築法規及び同演習 AAA210

Building Regulations Lecture and Exercises

必修 3単位 2年後期

授業の概要：建築物の設計において不可欠である法規についての講義と演習である。主に、建築基準法、建築士法を扱うが、関連する諸法についても触れる。自らが構想する建築を具体的に設計するにあたって、必ず守るべき最低限のルールについて理解できることを目指す。講義においては、より深い理解が得られることを目指し、諸法規の成立から変遷過程なども織り込みながら、また具体的な適用事例とも照らし合わせ、社会における実態とも関連づけながら丁寧に解説する。演習では演習問題に取り組むことを通してその理解を深め、実践的な力をつけることを目指す。

授業の達成目標：建築関連法規を読んで理解する基本的読解力の養成。
建築に関わる主要な法令概要の理解。
簡単な具体例に対して一定の判断を下すことのできる能力の養成。

31 木質構造 AAF215

Wooden Structure

選択 2単位 2年後期

授業の概要：木質構造の材料特性、構造計算、仕様規定、部材検討の方法を学ぶ授業。自然素材として異方性、耐久性、耐火性など特有の性質及びその性質を生かした建築物の表現方法と諸性能について解説し、部材から接合部、耐力壁、基礎までの計算法・設計法を学ぶとともに、木質構造の構造計画及び耐震性能、耐風性能について理解を深める。木質構造の構造設計における設計手順、検討項目等について学習し、具体的な建物を対象に、手計算により木質構造の構造設計を行い、構造図書を作成することを目的とする。

授業の達成目標：木質構造においては、自然素材である木材の特性を把握し、構造計算法・設計法及び仕様規定などを理解したうえで、一定規模な木質構造物を対象に、構造計算に必要な知識を習得することを目標とする。

33 骨組の力学Ⅲ AAF216

Frame Analysis Ⅲ

選択 2単位 2年後期

授業の概要：授業計画の前半においては、不静定構造物の解法を理解・修得するための前段階として静定構造物の力学について解説し、特に構造物の変形に関する考え方と計算方法について、これまでの講義で学習した内容を補完する講義を行う。また、各解法の理解を定着させるため、演習問題に取り組む。提出された演習課題については、次回以降の授業時に返却し、全体に対して解説を行う。

授業の達成目標：一般に構造物は静定ではなく不静定であり、力のつり合いのみでは反力や部材に作用する力などを求めることができないため、変形の条件も併せて考慮する必要がある。本講義では、不静定構造物を解くための代表的な手法である応力法、たわみ角法、固定モーメント法などについて、その考え方と基本的な適用法を解説し、修得することを目標とする。

35 鉄筋コンクリート構造 AAF310

Reinforced Concrete Structure

必修 2単位 3年前期 (Sコース)

選択 2単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要：コンクリートと鉄筋の材料特性、鉄筋コンクリート構造とした場合の作用応力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）と部材（柱、梁、耐力壁、基礎、柱梁接合部、床スラブ）ごとの力学的特性・構造設計規定、主に1次設計を対象とした構造計算の方法などについて講義する。また、計算方法の理解を深め、具体的な寸法や強度についての感覚を身に付けるため、演習課題に取り組む。提出された演習課題については、次回以降の授業時に返却し、全体に対して解説を行う。

授業の達成目標：鉄筋コンクリート構造においては、構成要素であるコンクリートと鉄筋のそれぞれの材料特性を把握し、複合構造とした場合の力学的特性、及び構造設計の考え方と方法を理解する必要がある。これらの理解に基づき、鉄筋コンクリート建物の構造計算の基礎を修得することを目標とする。

32 建築専門CADとBIM AAC213

Advanced Architectural CAD & BIM

選択 1単位 2年後期 (集中講義)

授業の概要：3つのコースに分かれ、集中講義形式で進める。専門領域に必要なソフト（BIMソフト、構造設計用ソフト、3Dソフト）の基本的な使い方から製図表現までを学ぶ。平面図や立面図、断面図、透視図などの作成を通して建築設計の技術と表現を習得する。授業では2つの小課題に取り組むことで、ソフトの操作方法やシステムの理解、プレゼンテーション技術の習熟を高める。

授業の達成目標：現代において学ぶべき建築デジタル技術は、その目的や専門に応じて多様化しつつあり、社会的な要請も高まりつつある。それら多様化する専門CADの技術を学び、実践的に習熟することで表現の可能性を広げることが目標とする。特に3次元の建築CADやBIMの技術を用いた表現を可能とする内容とし、履修学生が進む専門分野に必要な専門CADによる平面図、立面図、断面図、透視図等の基本的な製図技能を身に付ける。

34 住宅生産 AAE307

Housing Production

必修 2単位 3年前期

授業の概要：住宅生産・構法の概要を学ぶとともに、現在のわが国における住宅市場の動向や特徴等について理解を深める。住宅・建築生産のプロセスは、企画から設計、施工、維持保全そして解体といった一連のプロセスからなり、これらのプロセスは少子高齢化、ストック重視社会等を背景とした社会の変化と密接に関連する。本講義では、住宅生産と社会との関連、住宅に関する産業、組織、職能、マネジメントについて幅広く取り上げるとともに、ライフサイクルを考慮した住宅を「つくること」「つかうこと」について総合的に学ぶ。

授業の達成目標：・住宅生産の流れやマネジメント手法を理解する。

- ・住宅産業に関わる組織やその職能を理解する。
- ・住宅に用いられる建築構法を理解する。
- ・木造工事の内容を理解する。
- ・演習問題を通して、資格試験の出題傾向に慣れておく。

36 鉄筋コンクリート構造演習 AAF311

Exercises in Reinforced Concrete Structure

必修 1単位 3年前期 (Sコース)

選択 1単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要：「鉄筋コンクリート構造」の講義と並行して、講義内容に関する演習問題に取り組む。演習問題については、次回授業時に全体に対して解説する。

授業の達成目標：「鉄筋コンクリート構造」の講義では、構成要素の材料特性、複合構造とした場合の力学的特性、及び構造設計の考え方と方法の理解に基づき、鉄筋コンクリート建物の構造計算の基礎を修得することを目標としている。演習科目である「鉄筋コンクリート構造演習」では、「鉄筋コンクリート構造」の講義内容の概要を復習し、計算、設計、作図などの演習課題に取り組むことによって、具体的な寸法や常識的な断面設計についての感覚を身に付けることを目標とする。

37 鉄骨構造 AAF308

Design of Steel structure

必修 2単位 3年前期 (Sコース)
選択 2単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要：鉄骨構造の計算法及び設計法に関する講義である。圧縮を受ける部材の座屈を考えるとときの細長比による許容圧縮応力度の計算、曲げを受ける部材の横座屈を考えるとときの許容曲げ応力度の計算法について説明し、せん断応力度や支圧応力度に関して講義を行う。梁や柱が軸力と曲げを同時に受けるときの設計法について講義する。更に鉄骨部材の接合について紹介し、特に溶接やボルト・リベットの接合の特徴、計算法及び設計法について解説する。最後は話題になっている鉄骨構造の実例を紹介し、その特徴に関して解説する。

授業の達成目標：鉄骨構造の特性と各部材に要求される性能について理解する。また、柱梁などの部材および接合部がどのような力学的原理に基礎をおいて設計されているかを習得する。一級建築士試験問題と同じ難易度の問題を解くことができる。

39 建築設備システム及び同演習 AAG312

Building Equipment Lectures and Exercises

必修 3単位 3年前期

授業の概要：本科目は、建築の設計・施工に際して必要な建築設備システムの基礎的な知識を学び、設備計画方法についても論ずる。講義では、建築設備システム（給排水設備・ガス設備・空調設備・電気設備）の基礎的な概念・用語・システム構成、そして設備計画・設計に必要な計算方法を学ぶ。演習では、計算や課題を通して、建築設備計画、給排水・空調・電気設備設計の基礎知識と応用技術への理解を深める。また、授業で提示した課題・資料等については、LMS上で公開し、フィードバックを行う。

授業の達成目標：本科目は、建築士資格試験・建築および管工事施工管理技士資格試験における必須の分野である。建築物を機能させ、高度な技術で快適な住生活・仕事などを支える建築設備システムは機械・配管配線・器具などで構成されている。建築設備システムの基礎的な知識および設備計画・設計に必要な計算方法を習得する。給排水・ガス設備・空調設備・電気設備などを中心とする主要な機器・システム構成・設備容量・負荷計算を、講義および演習を通じて修得することを目的とする。

41 都市計画 AAB303

Urban Planning

必修 2単位 3年前期

授業の概要：都市の歴史とその社会背景について概説し、「都市計画」成立の過程を学ぶ。その上で、現在の都市の構成要素、それらの計画手法について各種・各地の事例を参照しながら考察を進める。事例参照の際は、世界及び日本の各地域の事例と仙台・宮城・東北の事例とを対照させつつ、これからの地域づくりに応用可能な計画手法について論述する。都市計画に関する基本的な理念と方法・手法を理解し、都市とは、都市化とは、都市問題とは何かなどの基礎的な事項について計画的な視点から評価することができる力を養う。また、各地の事例の検討を通して、都市解析の手法と都市における建築設計の思考の基本を体得することを目標とする。

授業の達成目標：都市計画に関する基本的な理念と方法・手法を理解し、都市とは、都市化とは、都市問題とは何かなどの基礎的な事項について計画的な視点から評価できるようになること。また、各事例の検討を通して、都市解析の手法と都市における建築設計の思考の基本を体得すること。

38 鉄骨構造演習 AAF309

Exercises in Design of Steel Structures

必修 1単位 3年前期 (Sコース)
選択 1単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要：「鉄骨構造」の講義と対になっていて、講義で学んだ知識の理解を深めるための演習である。圧縮材の座屈応力の計算、許容圧縮応力度及び許容曲げ応力度と細長比（幅厚比）曲線の算定、圧縮材、大梁及び柱の設計などに対応する数多くの演習問題を実際に解くことで、計算及び設計法を身に付ける。異なる溶接方法による接合応力度の計算、ボルト・リベットの接合強さの計算及び設計などについても演習問題を課し、定められた時間内に結果を提出させる。一級建築士と同レベル演習問題を解きながら設計に取り組む能力を身に付ける。

授業の達成目標：鉄骨構造の成り立ちを理解し、簡単な鉄骨建物の設計技能を修得する。

40 建築プロフェッショナル論 AAA301

Introduction to Architectural Professional

必修 2単位 3年前期

授業の概要：広い領域を包含するプロフェッショナルな建築の仕事の領域とその実際、建築学で学んだ知識や技術を活かすことができる将来の活躍の場の理解を通して、建築学の魅力を再確認し、自身の進路検討につなげ就業意欲の醸成を図る。建築各界の第一線で活躍する本学科卒業の建築技術者をゲストスピーカーに迎えての講義も交えて、建築技術者として必要な技術や知識を理解することを旨とする。（オムニバス方式／全15回）

授業の達成目標：社会で活躍する本学科卒業の建築技術者・設計者・研究者などの講義を通して、建築に関わるプロフェッショナルな仕事・業務の具体を知ること、自身の進路の参考とし、また建築の深さと広がりを知る。建築の専門技術を活用することができる職域を理解し、地域社会や地域（仙台・宮城・東北地方）に貢献するために必要な各分野の基本的、実践的知識を現役実務者の講義により習得する。

42 建築設計Ⅴ AAB302

Architectural Planning and Design V

選択 2単位 3年前期 (Sコース)
必修 2単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要：豊かな社会生活を実現するために必要な諸施設、具体的には教育施設や地域文化施設などの設計演習を通し、社会が提供すべき公共空間のありかた、その空間構成について考察し、建築設計に反映させることを目標とする。また、多様化する社会状況を反映し、単機能に留まらない複合的な機能構成を設計課題とすることで、建築と社会の新しい関係について計画・提案することも目標とする。建築設計における計画力や表現力が習得できることを重視する。建築図面のプレゼンテーションにおいて、訴求力のある表現ができることを目指す。並行して開講される「建築計画Ⅳ」、「都市計画」とも連動した課題とする。

授業の達成目標：2つの地域施設・公共施設の設計（教育施設、文化施設）を通じて、地域における公共施設の機能と規模の関係を理解する。設計に関わるゾーニング計画、配置計画、平面計画、立・断面計画、意匠など規模や構造に応じた適切な計画・設計ができるようになることを目標とする。また、建物の外部空間の構成、ランドスケープや植栽、広場などの概念を理解するとともに、空間の規模、機能に対応する架構方法について適切に判断する方法を学ぶ。地域課題をとらえる中での施設計画のあり方、特に仙台・宮城の地域社会や地域生活と施設計画・デザインの関わりとそのあり方を学ぶ。

43 建築計画Ⅳ AAB304

Architectural Planning Ⅳ

選択 2単位 3年前期 (Sコース)
必修 2単位 3年前期 (Dコース)

授業の概要: 各種の施設計画(建築計画)を扱う。講義では高齢者居住施設(老人ホームや高齢者住宅)と教育施設(小学校)の計画実例の解説を通し、建築計画的課題とそれを解決するための平面計画上の要点や、より質の高い施設計画につなげるための視点を修得する。各施設を取り巻く社会的・文化的・地域的な背景、各施設を支える制度、及び各施設における具体的な生活やプログラムを解説しながら進める。仙台、宮城、東北地方にある多数の施設事例を通して、将来の地域デザインを地域施設のあり方から考えられるように意識付けを行う。

授業の達成目標: 地域施設の建築計画にかかわる基礎的な知識を習得することを目的とする。特に人々が健全で豊かな地域・社会生活を営む上で必要となる教育・福祉に関わる各地域施設の計画課題について講義する。現代の社会・文化環境、地域社会の中で存在する各施設が抱える課題、それらを支える制度、施設成立の歴史的背景、今後将来の地域施設の発展について、建築的な視点を超えて、幅広く考察できる知識を身につける。仙台、宮城、東北地方の状況を俯瞰しながら、地域施設の現状と今後のあり方を建築計画的に理解することを目標とする。

45 建築専門表現 AAC305

Advanced Architectural Presentation

選択 1単位 3年前期 (集中講義)

授業の概要: 自らが設計した建築を的確かつ魅力的にプレゼンテーションするためには、一般的な設計製図手法とは異なる独自の表現方法を身に付ける必要がある。具体的には一連の訴求力のある資料を総合的に取りまとめることができるよう、図面表現、レイアウト、編集作業などについて実践的な解説と演習を行う。受講者がそれら技術を習得し、よりレベルの高い専門的な建築表現が可能となることを目標とする。また、建築実務において応用できる内容とする。

集中講義形式による進める。

授業の達成目標: プレゼンテーションにおける図面表現やレイアウトの基本を理解する。

編集作業を通してプレゼンテーションの技術を習得する。

47 建築学研修Ⅰ AAH320

Architecture Seminar Ⅰ

必修 2単位 3年後期

授業の概要: 「建築学研修Ⅲ」(卒業論文・卒業設計)に向けて必要な基礎学習をゼミナール形式で行い、「建築学研修Ⅱ」につなげる。基本的には、建築学に関する研修テーマを各自設定し、ゼミナールや文献調査等によりテーマの理解を深め、問題点を把握する。仙台、宮城、東北地方などの地域空間、地域社会など地域の課題を考えられるようになることを目指す。さらにその問題点や課題の解決方法を探り、仮説を立てて、仮説の実証のために調査、実験、または設計案作成を行う。この研修を通じて、自らの適性についても理解を深め、進路選択の一助となるようにする。ゼミナールの中では外部講師によるレクチャーやエスキス指導、見学会や講評会を行うこともある。

授業の達成目標: 建築専門各分野における研究活動のための技術や地域の実情に触れるとともに、研究テーマ設定のための基礎知識や方法論、仙台、宮城、東北地方などの地域の実態や課題をゼミ等を通じて実践的に体得する。

44 近代建築史 AAD306

Modern Architecture History

選択 2単位 3年前期

授業の概要: 近現代の建築文化がいかに変化してきたかについて、映像資料によって、近代建築の成立を中心に、19世紀から21世紀の範囲で学ぶ。年代とキーワードから、近現代建築についての歴史的パースペクティブを得ることを目標とする。世界各国の社会状況の変化、美術の潮流との関連を参照しつつ、現代建築に至る歴史を理解し、建築設計への応用に必要となる建築史の基本的知識を習得する。19世紀の産業革命以降の建築(鉄・ガラス・コンクリート)、20世紀に入ってから近代建築の黎明、誕生、成立そして展開の過程、さらには1940年代以降の近代から現代への移行の中での建築文化の潮流、ポストモダニズムからモダニズムへの回帰と最新の現代建築への展開等について学ぶ。

授業の達成目標: 近代から現代にかけての建築文化・産業の変化を知識として習得し、現代の建築デザインと歴史の関連を理解する。

46 建築経済 AAA313

Building Economics

必修 2単位 3年後期

授業の概要: 建築活動を経済的側面からとらえ、「建築コスト」及び「建設や維持保全行為(マネジメント)」に関する考え方、手法について学ぶ。建築生産プロセスにおける様々な経済行為に関する実務に基づいた講義を通して、入札・契約方式、工事費の構成、建築積算における数量算出やコスト算定の手法などを習得するとともに、建築におけるコストマネジメントやLCC(ライフサイクルコスト)、VE(バリューエンジニアリング)といった応用分野についても学ぶ。

授業の達成目標: 建築生産活動を支える経済的側面、特に建築積算の基本的な考え方を理解し、建築数量の計測・算出の知識や技術を習得するとともに、建築におけるコストマネジメントの考え方を身につける。

48 地域空間計画 AAB315

Regional Planning

選択 2単位 3年後期 (Sコース)

必修 2単位 3年後期 (Dコース)

授業の概要: これからの地域づくりに欠かすことのできない「地域資源の再評価」について各地域の事例を参照しながら、その解釈の方法を学ぶ。その上で、地域が伝統的に培ってきた歴史的環境・文化的空間及び地域空間を生かそうとする施策について理解を深める。地域とはなにか、その拡がりや対象を理解し、それらの問題点を計画論としてどのように対処すべきかを説明できるようにする。また、その過程で、地域資源(ストック)の再評価を目的に、地域に現存する歴史的環境・文化的資源や制度によって作られる形の抽出を行い、価値の転換・共有をはかることを可能とする計画提案に結びつけられる力を養う。具体的には、東北・宮城・仙台など地元地域の空間構成への理解を深めるべく、地域づくり提案書・レポートの作成を行い、その過程の中で地域の歴史・文化的価値についての見方を習得できるようにすることを旨とする。

授業の達成目標: 地域とはなにか、その拡がりや対象を理解し、それらの問題点を計画論としてどのように対処すべきかを説明できるようにすること。その過程で、地域資源(ストック)の再評価を目的に、地域に現存する歴史的環境・文化的資源や制度によって作られる形の抽出を行い、価値の転換・共有をはかることを可能とする計画提案に結びつけられるようになること。具体的には、東北・宮城・仙台など地元地域の空間構成への理解を深めるべく、地域づくり提案書・レポートの作成を行い、その過程の中で地域の歴史・文化的価値についての見方を習得できるようにすることが望まれる。

49 建築生産 AAE316

Building Production

必修 2単位 3年後期 (Sコース)
選択 2単位 3年後期 (Dコース)

授業の概要：建築は施工というプロセスを経て実現する。本講義では、建築工事の着工から竣工に至るまでの施工の概要と生産管理技術について学ぶ。建築工事は、各種専門工事の集合体でもある。建築物の躯体工事及び仕上工事に関係する事項について、工事進捗にあわせた、工種別の専門的な基礎知識を解説するとともに、施工計画、施工管理、工程管理などについて学ぶ。講義内容は、建築士や建築施工管理技士などの資格試験科目（施工）に対応しているので、試験対策を意識した解説も行う。

授業の達成目標：・建築生産の流れを理解する。

- ・生産管理の内容を理解する。
- ・各工事で使われる用語を覚える。
- ・各工事の内容を把握する。
- ・演習問題を通して、資格試験の出題傾向に慣れておく。

51 都市環境 AAG319

Urban Environment

選択 2単位 3年後期

授業の概要：現代では多くの人々が都市に住まい、都市で活動している。建築学の領域も建築そのものから建築外部空間や都市空間へと拡大している。

本講義では、都市環境に関わる基礎的な事項を学ぶとともに、先端的な話題・課題・研究事例を見聞することにより、都市を構成する私達自身の、都市環境との関わり方について講義する。例えば、都市のヒートアイランド、都市災害、都市環境計測手法、都市のインフラストラクチャー、エネルギー供給システム、環境管理、環境配慮街づくり事例など、仙台をはじめとする各都市の実態である。都市環境行政については、行政実務者による講義とする。

授業の達成目標：都市環境に関わる基礎的な事項と応用・制御技術を学び、建築と都市環境との関わり、私達自身と都市環境との関わりについて、思慮する能力を身につけることを目標とする。

53 耐震設計法 AAF318

Earthquake Resistant Design

選択 2単位 3年後期

授業の概要：授業計画の前半では、主要な地震被害の特徴と耐震設計規定に与えた影響を解説しながら、現行の耐震設計法の体系と成立過程、建物構造別・規模別の設計手法の概要について講義する。また、中規模・大規模建築物に適用される設計規定について学ぶ。後半では、小規模木造建築物に適用される仕様規定の概要、物理学の振動論に基づいた建物の地震応答原理、超高層建築物と免震・制振建物について講義する。また、例題建物を設定し、地震力、振動特性、耐震性能などを算出し、耐震設計手法を確認する演習課題を行う。提出された演習課題については、次回以降の授業時に返却し、全体に対して解説を行う。

授業の達成目標：本講義では、地震に対する建物の応答原理と、これまでに経験してきた震害の特徴と影響を把握し、現行耐震設計法の体系を理解することを目標とする。

50 建築基礎構造 AAF317

Foundation Engineering for Buildings

選択 2単位 3年後期

授業の概要：建築物を支えるための地盤と基礎に関する講義である。地盤調査法、土の物性及び分類、コンシステンシー、粘土の排水及び土の圧縮性と圧密、そして土のせん断強さなど地盤に関する知識を紹介する。それをを用いて浅い基礎（連続基礎、マット）及び深い基礎（杭）の特徴、設計法、耐力計算について講義して、群杭の効率について説明する。現場の基礎工事時の山留の計算、設計についても紹介し、擁壁の設計に必要なアクティブ及びパッシブ土圧について解説する。授業時に知識を深めるための小演習問題を課して講義を進める。

授業の達成目標：基礎を支える地盤を構成する土の分類及び各々の特性を理解し、その支持力の簡単な計算ができる。基礎の形状、構成による基礎の分類及び特性を理解し、その役割及び耐力の計算ができる。擁壁についても講義し、土圧に関する理解を深める。一級建築士試験問題と同じ難易度の問題を解くことができる。

52 建築設計Ⅵ AAB314

Architectural Planning and Design Ⅵ

選択 3単位 3年後期

授業の概要：仙台における具体的な地区を対象とし、地区に必要とされる建築プログラムの抽出と、そのプログラムを具体化した建築提案（公共施設、商業施設、住宅など）までを行う。これら建築設計における初期プロセスを含む一連の作業を体験することで、調査力、構想力、企画力を習得することを目標とする。演習はグループワークと個別作業の2段階に分けて構成する。前半のグループワークでは主に対象地区の調査・分析から課題の抽出までを行う。後半の個別作業では、前半に得た成果をもとに建築プログラムを抽出し、具体的な建築デザインの提案まで行う。グループワークを取り入れることで、建築実務において必要とされるチームワークやチームマネジメントに関する能力の必要性についても学ぶ。

授業の達成目標：リサーチ（グループワーク）とその成果をもとづく設計提案（個人）を行う。敷地の分析から、設計条件の抽出、プログラムの策定に関わる一連の設計プロセスを理解するとともに、自ら立てたプログラムをもとに、建築をデザイン、プレゼンテーションする力を身につける。グループでリサーチを行い、毎回その成果を図化して発表、講評するプロセスを経る。最終的に根拠にもとづいた計画・設計ができるようになることを目標とする。またグループによるリサーチと検討を通して、設計におけるチームと個々の役割を理解する。

54 建築学研修Ⅱ AAH407

Architecture Seminar Ⅱ

必修 2単位 4年前期

授業の概要：「建築学研修Ⅰ」での成果を踏まえて、さらにそれを深め、「建築学研修Ⅲ」につなげるための取り組みとして位置づける。本研修をとおして、仙台、宮城、東北地方などの地域空間、地域社会など地域に潜在する課題を発見し、具体的な解決を図るための基礎的知見を得ることを目指す。「建築学研修Ⅲ」（卒業論文・卒業設計）のために必要な学習をゼミナール形式で行う。「建築学研修Ⅰ」で検討した課題テーマをさらに掘り下げ、具体的な研究テーマ（設計テーマ）として設定する。それらのテーマに対して定期的なゼミナール、文献調査等により、テーマの理解を深め、課題の把握と、仮説の設定、さらにはその実証のための調査手法・設計手法の具体について計画を立てる。実際に調査や計画・設計を進め、結果を報告書や小論文、または設計企画書などの形でまとめる。目的達成のため、学外での調査やフィールドワーク、外部講師によるレクチャーやエスキズ指導、講評会を行うこともある。

授業の達成目標：建築専門各分野における研究活動のための技術に熟練するとともに、仙台、宮城、東北地方などの地域や社会に関わる課題を具体的に発見する。研究テーマを決め、テーマの問題点、方向を示し、解決方法の仮説をたてる。仮説を実証するための、実験、調査、制作を行い基礎データを得る。地域や社会における研究テーマや設計課題の位置づけを明確にする。

55 建築総論 AAA401

Integral Theory of Architecture

選択 2単位 4年前期

授業の概要：建築各分野（歴史・計画・設計・構造・材料・施工・環境・設備）の知識と技術を統合するための講義。各分野の知識と技術が相互に関連し合うことを再確認する。最先端の研究動向や最新の実務的話題をテーマにしながら、建築が向かう方向性を確認し、建築を総合的に理解する。

授業の達成目標：建築専門各分野における最新・最先端の技術や知識を理解し、修得することでこれからの時代における建築のあり方を把握する。それまで学んできた建築専門分野の学びの相互の関連性を再確認し、統合した姿を捉えることで、大きな視点に立って建築を俯瞰することができるようにする。専門分野の役割を再理解することで、将来の建築・建設業界に貢献する一技術者としての役割を自覚し、学問と実務との接続についても強く意識できるようになることを目指す。仙台・宮城・東北地方の地域社会や地域生活と建築との関わりについても深めて学ぶ機会とする。

57 建築設計Ⅶ AAB403

Architectural Planning and Design Ⅶ

選択 3単位 4年前期

授業の概要：これまでの建築設計Ⅰ～Ⅵで習得された諸技能を統合させ表現する演習である。本演習では、共通に設定された課題のもと、複数の提案グループに分かれ、グループごとに教員指導を受けるスタジオ方式をとる。設定されたテーマに対しては、グループごとに多様な設計アプローチをとることを可能とする。中間及び最終段階において相互に成果を確認し、相互に評価を行う。設計アプローチとその成果の多様性について学ぶとともに、そこに現われる共通要素についても最終的に確認することで、課題が持つ本質的テーマについて相互に学ぶことができる内容とする。4年後期の卒業研修（設計）にむけた演習として位置づけられる。

授業の達成目標：企画から計画・設計の一連のプロセスを理解するとともに、自ら立てたプログラムをもとに、選定した敷地に対応した建築をデザインし、最終的にプレゼンテーションする力を身につける。プレ卒業設計（卒業研修）として位置づけ、リサーチ、建築設計とデザイン、構造計画等を統合させることを目指す。仙台・宮城・東北地域にあるニーズや課題、現代の社会的背景に向き合い、これからの地域社会・生活を豊かにするための建築空間（公共施設、商業施設、住宅など）の提案を目指す。

59 建築性能論 AAE405

Performance of Building Element

選択 2単位 4年前期

授業の概要：建築材料の講義や実験でこれまでに得た知識を基礎として、建築物に求められる性能とその構成要素としての材料性能との係わりについて学ぶとともに、材料を評価、選定するための材料設計手法の基礎を習得する。持続可能な社会が求められる現在、建築に求められる性能も変化してきている。建築物のライフサイクルとその社会・経済・環境的な側面の関係を理解した上で、建築行政や関連制度の動向のほか、材料の耐久性と建築物の寿命との関係などについても実例を通して学ぶ。また、東北・宮城地域における地域産材や地産地消の課題などについて考える。

授業の達成目標：建築部位に求められる性能と建築材料との係わり、建築物の寿命や材料の耐久性、地域性についての考え方について理解する。

56 災害と建築 AAA402

Architectural Studies for Disasters

選択 2単位 4年前期

授業の概要：地球環境や社会環境の変化とともに、人間は様々な災害と向き合っている生活することが前提となりつつある。各種災害の諸相を理解し、災害による人的・物的被害や社会的影響を軽減するための建築の役割を多角的に学び習得する。災害後の復旧・復興、災害を意識したまちづくりや建築計画についても理解を深める。
(オムニバス方式/全15回)

授業の達成目標：地震だけではなく、各種災害と建築との関わりについて学ぶ。防災の観点から、BCP、災害そして復旧・復興の観点まで連続的に捉えることで、災害を意識した建築の計画・設計、BCP計画、構造、設備の重要性を理解する。また過去の災害の歴史を振り返り、それらからの教訓を理解することで、未来につながる防災の意識を醸成し、災害教育、建物の計画からまちづくりに及ぶまで建築が果たすべき役割について各分野横断的に学び理解することを目指す。また、東北、宮城、仙台的地域における災害と復興の歴史を学ぶことで、将来地域社会に貢献する建築技術者として必要な知識を身につける。

58 建築構造の設計 AAF406

Design of Building Structure

選択 2単位 4年前期

授業の概要：建築物が大規模・複雑化している現在、コンピュータを駆使した構造計算が一般化している。専用ソフトを用いての計算は効率的に行える一方で、技術者としての計算結果に対する判断力が経験として蓄積されにくい。本講義では、構造設計における計算過程や原理を理解するとともに、得られた結果に対して適切な判断ができる力を修得することを目指す。具体的には、小規模な鉄筋コンクリート造建築物を対象に、手計算により構成部材の断面算定を行う。また、計算結果に基づき、構造計算書、構造図面を作成する。

授業の達成目標：近年、複雑化している構造計算の基本的な原理を理解し、適切に実務を遂行するためには、過度にコンピュータに依存することなく、実際の構造計算の手続きと流れを体験することが重要である。そのため、単純な形状の鉄筋コンクリート造建築物を対象に、手計算により構造計算書と構造図面を作成し、構造設計の概要を理解することを目標とする。

60 建築意匠 AAD404

Architectural Design

選択 2単位 4年前期

授業の概要：本講義では建築がもつ意匠の諸相やその背景概念、相互関係等について横断的かつ概観的に学ぶ。講義では建築における概念や要素をテーマとし、地域や時代にとらわれない建築意匠の多様性や共通性について、具体的な実例を通して読み解きながら学ぶ。受講者はこれまで「ヨーロッパ建築史」、「日本建築史」、「近代建築史」で得られた知識を統合し、自らの設計やデザインを自覚的に捉えなおし、さらなる建築設計におけるデザイン力強化を目指す。また、受講者は建築意匠の諸相について調査・発表することで、建築意匠について理解を深め、自らの建築意匠に照らし合わせて解説できることを目標とする。

授業の達成目標：建築意匠における諸概念や要素、またそれら相互関係の理解。
受講者自らによる建築意匠への視点や解釈の確立。

61 建築学研修Ⅲ AAH408

Architecture Seminar Ⅲ

必修 4単位 4年後期

授業の概要：建築学研修ⅠとⅡでの取り組みを踏まえて行う。最終的な研修（卒業設計・卒業論文）のテーマと取り組むべき課題を明確にし、それぞれが設定した課題解決のための仮説をたてて実験、調査、設計・制作を進める。自ら設定した研究や設計のテーマが、仙台、宮城、東北地方などの地域や社会にどのように還元され、意義や価値を持つものなのかを考えながら研修作業を進め、完成度の高い論文もしくは設計作品としてまとめる。成果については発表会にて全員がプレゼンテーションを行い、質疑と講評を受けるプロセスを経て最終的な成果物の提出を行う。一連の作業を通して、これまで学んできた建築学の専門知識と技術を統合する能力を養成することを最終目標とする。

授業の達成目標：研修のテーマを明確に示すとともに、問題点、取り組むべき課題を明確にし、問題解決のための仮説をたてる。実験、調査、制作により、データ、作品を解析し、仮説を論理的に実証する。仙台、宮城、東北地方などの地域や社会における研究、作品の意義や価値も含めて考えられるようにする。成果の内容を論文、作品としてまとめるとともに、それをプレゼンテーションし講評を受け、それを研究内容に反映させる

63 建築インターンシップⅡ AAX002

Architectural Internship Ⅱ

選択 1単位 2年前期～4年前期

在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計 45 時間以上を必要とする。

- ・インターンシッププログラムは、学科が認定した建築設計、設備設計、構造設計に係わる業務を行う建築士事務所等を受入先とし、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に指導を受ける。受入先には学科から受入及び教育プログラム（内容・方法・期間）作成の依頼書を送付する。指導プログラムについては、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に任されるが、事前に学科と合意をかわした上で、プログラムを開始する。
- ・合計 45 時間以上（30 時間以上の実勤務と 15 時間以上の事前・事後の準備やまとめの時間）を必要とする。勤務時間は受入先の制度に準じる。
- ・受講生は個人での保険加入を義務づける。
- ・受講生には報酬は支払われない。
- ・受入先と学科（もしくは指導教員）は常時連絡が取れる体制とする。
- ・実習した業務内容を報告書資料としてまとめ、受入先の指導者に確認を受け、学科に提出する。

※インターンシップは最大 2 科目 4 単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

65 建築インターンシップⅣ AAX004

Architectural Internship Ⅳ

選択 2単位 2年前期～4年前期

在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計 45 時間以上を必要とする。

- ・インターンシッププログラムは、学科が認定した建築設計、設備設計、構造設計に係わる業務を行う建築士事務所等を受入先とし、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に指導を受ける。受入先には学科から受入及び教育プログラム（内容・方法・期間）作成の依頼書を送付する。指導プログラムについては、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に任されるが、事前に学科と合意をかわした上で、プログラムを開始する。
- ・合計 90 時間以上（60 時間以上の実勤務と 30 時間以上の事前・事後の準備やまとめの時間）を必要とする。勤務時間は受入先の制度に準じる。
- ・受講生は個人での保険加入を義務づける。
- ・受講生には報酬は支払われない。
- ・受入先と学科（もしくは指導教員）は常時連絡が取れる体制とする。
- ・実習した業務内容を報告書資料としてまとめ、受入先の指導者に確認を受け、学科に提出する。

※インターンシップは最大 2 科目 4 単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

62 建築インターンシップⅠ AAX001

Architectural Internship Ⅰ

選択 1単位 2年前期～4年前期

在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計 45 時間以上を必要とする。

- ・インターンシッププログラムは、学科が認定した建築設計、設備設計、構造設計に係わる業務を行う建築士事務所等を受入先とし、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に指導を受ける。受入先には学科から受入及び教育プログラム（内容・方法・期間）作成の依頼書を送付する。指導プログラムについては、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に任されるが、事前に学科と合意をかわした上で、プログラムを開始する。
- ・合計 45 時間以上（30 時間以上の実勤務と 15 時間以上の事前・事後の準備やまとめの時間）を必要とする。勤務時間は受入先の制度に準じる。
- ・受講生は個人での保険加入を義務づける。
- ・受講生には報酬は支払われない。
- ・受入先と学科（もしくは指導教員）は常時連絡が取れる体制とする。
- ・実習した業務内容を報告書資料としてまとめ、受入先の指導者に確認を受け、学科に提出する。

※インターンシップは最大 2 科目 4 単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

64 建築インターンシップⅢ AAX003

Architectural Internship Ⅲ

選択 2単位 2年前期～4年前期

在学中に実際の建設関連企業（建設会社、設計事務所等）での就業経験を持つことにより、職業観及び社会観を養うことを目的とする。進路選択にあたって自らの特性や個性、さらには適性を認識し、適切な業種や職種を見いだしていく作業は学内での講義・演習だけでは難しい。高度な水準での建築設計の現場を体験することで、学内では学びきれない建築と社会の関わりを学び、進路選択のための検討の機会とする。自らの職業観を確立させ、学んでいる学問の意義を十分理解し、自主性を備えた人材育成を目指す。実働計 45 時間以上を必要とする。

- ・インターンシッププログラムは、学科が認定した建築設計、設備設計、構造設計に係わる業務を行う建築士事務所等を受入先とし、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に指導を受ける。受入先には学科から受入及び教育プログラム（内容・方法・期間）作成の依頼書を送付する。指導プログラムについては、受入先の建築士（設備設計の場合は建築設備士を含む）に任されるが、事前に学科と合意をかわした上で、プログラムを開始する。
- ・合計 90 時間以上（60 時間以上の実勤務と 30 時間以上の事前・事後の準備やまとめの時間）を必要とする。勤務時間は受入先の制度に準じる。
- ・受講生は個人での保険加入を義務づける。
- ・受講生には報酬は支払われない。
- ・受入先と学科（もしくは指導教員）は常時連絡が取れる体制とする。
- ・実習した業務内容を報告書資料としてまとめ、受入先の指導者に確認を受け、学科に提出する。

※インターンシップは最大 2 科目 4 単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

66 建築学特別課外活動Ⅰ AAX005

Off-class Practice in Architecture Ⅰ

選択 1単位 1年前期～4年後期

本学科の専門に関連の深い資格の取得（建築士、宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅠについては、実働計 45 時間以上の内容を必要とする。なお、ⅡおよびⅢと同一の内容での申請は認められない。

※建築学特別課外活動については、最大 2 科目 4 単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

67 建築学特別課外活動Ⅱ AAX006

Off-class Practice in Architecture Ⅱ

選択 2単位 1年前期～4年後期

「建築学特別課外活動Ⅰ」同様、本学科の専門に関連の深い資格の取得（宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅡについては、実働計90時間以上の内容を必要とする。なお、ⅠおよびⅢと同一の内容での申請は認められない。

※建築学特別課外活動については、最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

68 建築学特別課外活動Ⅲ AAX007

Off-class Practice in Architecture Ⅲ

選択 2単位 1年前期～4年後期

「建築学特別課外活動Ⅰ」「建築学特別課外活動Ⅱ」同様、本学科の専門に関連の深い資格の取得（宅地建物取引士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーターなど）、学外研修や学科が実施する課外活動への参加、学生の自主的かつ計画的な活動とその成果（留学、設計競技受賞など）に対して、本人の申請に基づいて、学科で審査の上、専門選択科目として単位を認めるものである。学科では学生の自主性と行動力を高め、企画力やコミュニケーション力、学ぶ意欲の醸成の観点からも学生自身による積極的な取り組みを推奨している。なお、教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請や、同一内容での複数回の申請は認められない。対象となる資格・課外活動の詳細や申請方法などについては、別途案内する。このⅢについては、実働計90時間以上の内容を必要とする。なお、ⅠおよびⅡと同一の内容での申請は認められない。

※建築学特別課外活動については、最大2科目4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

69 他学科開講科目群 AAX008

Subjects offered by other departments

選択 1～4単位 1年後期～4年後期

建築学が関わる学問的領域は広い。本学科の専門的な知識をよりよく、また深く理解するために、他学科の開講科目（建築学に関わるものに限る）を履修することができる機会を設けている。履修にあたっては、事前に履修科目について建築学科教務委員に相談の上、当該科目の担当教員の許可を得て、教務学生課で所定の手続きを行う。詳細については当該科目のシラバスを参照のこと。

※他学科開講科目と他大学開講科目は、あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

70 他大学開講科目群 AAX009

Subjects offered by other universities

選択 1～4単位 1年後期～4年後期

建築学が関わる学問的領域は広い。本学科の専門的な知識をよりよく、また深く理解するために、他大学の開講科目（建築学に関わるものに限る）を履修することができる機会を設けている。履修にあたっては、事前に履修科目について建築学科教務委員に相談の上、本学教務学生課及び受講先大学の担当課に確認の上、手続きを行う。

※他学科開講科目と他大学開講科目、あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。

建築学部

教育職員課程

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程

第1条 学則第42条の規定に基づく教育職員免許状の取得に要する授業科目の履修に関しては、この規程の定めるところによる。

第2条 本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は学則第42条に定めるとおりであるが、その修得に関する授業科目及び単位については次のとおりである。

令和2年度入学生から適用

建築学部 教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目

「工業」の免許状取得に必要な科目

区分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数									
				1年		2年		3年		4年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	2		2									
	教育心理学	2		2									
	教育制度論	2			2								
	特別支援教育	1			1								
	教育課程論	2				2							
	教育原理	2				2							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	生徒・進路指導論	2				2							
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2					2						
	教育相談	2					2						
	教育方法学	2					2						
教育実践に関する科目	教育実習	2									6		
	教育実習事前・事後指導 *1	1									2		
	教職実践演習（高）	2										2	
その他の関連科目	日本国憲法	2						2					
	健康・運動科学実習Ⅰ	1		2									
	健康・運動科学実習Ⅱ	1			2								
	英語ⅠA	1		2									
	英語ⅠB	1			2								
	建築CAD	2			2								

*1 教育実習事前・事後指導は、3年後期から4年にかけて実施する。

教科及び教科の指導法に関する科目のうち、各教科の指導法

「工業」の免許状取得に必要な科目

区分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数									
				1年		2年		3年		4年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	工業科教育法A（「工業」免許必修）	2						2					
	工業科教育法B（「工業」免許必修）	2							2				

建築学部 建築学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		建築入門	2			工業科教育法B	2		
		建築表現	1						
		建築設計I	2						
		建築材料I	2						
		建築環境工学概論	2						
		建築CAD	2						
		建築計画I	2						
		ヨーロッパ建築史	2						
		建築材料II	2						
		骨組の力学I	2						
		日本建築史	2						
		建築材料実験I	1						
		熱・空気環境	2						
		骨組の力学II	2						
		建築計画III	2						
		建築法規及び同演習	3						
		建築設備システム及び同演習	3						
		建築プロフェッショナル論	2						
	都市計画	2							
職業指導	職業指導(工業) *	2							

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
部科区分	科目区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	Z	-	Z	-	201
FZ-Z-201					

※全学部「教育制度論」(1 年次後期開講) の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (部科区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
EACS	工学部全学科/建築学部 産業デザイン学科/生活デザイン学科
ET	電気電子工学科/情報通信工学科
MC	経営コミュニケーション学科
(科目区分)	
Z	教職科目

2 段目 (分野)	
Z	教職科目

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100 番台	開講セメスター 1 クラスレベル
200 番台	開講セメスター 2 クラスレベル
300 番台	開講セメスター 3 クラスレベル
400 番台	開講セメスター 4 クラスレベル
500 番台	開講セメスター 5 クラスレベル
600 番台	開講セメスター 6 クラスレベル
700 番台	開講セメスター 7 クラスレベル
800 番台	開講セメスター 8 クラスレベル
000 番台	その他 (レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科 目 名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FZ-Z-101	教職概論	2							
FZ-Z-102	教育心理学	2							
FZ-Z-201	教育制度論		2						
FZ-Z-202	特別支援教育		1						
FZ-Z-301	教育課程論			2					
FZ-Z-302	教育原理			2					
FZ-Z-303	生徒・進路指導論			2					
FZ-Z-401	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法				2				
FZ-Z-402	教育相談				2				
FZ-Z-403	教育方法学				2				
EACSZ-Z-501	工業科教育法 A					2			
ETZ-Z-502	情報科教育法 A					2			
EACSZ-Z-601	工業科教育法 B						2		
ETZ-Z-602	情報科教育法 B						2		
FZ-Z-701	教育実習							6	
FZ-Z-702	教育実習事前・事後指導							2	
FZ-Z-801	教職実践演習 (高)								2

1 教職概論 FZ-Z-101

Introduction of Teaching Profession

必修 2単位 1年前期

授業の概要：教職課程の意義や教員としての資質・心構えを導入とし、先輩教員の実践例などを通して、教員としての生き方を考える。次いで、現在の学校・学校教育及び教職に関する基礎的な事項について解説し、その定着を図るために数回の確認テストを行う。また、自らを振り返り、進路意識を明確にするために小レポートを課し、優れたものは共有化することによって意識の深化を図る。

授業の達成目標：1. 今日の学校教育や教職の社会的意義を理解するとともに教職への意欲を高める。
2. 教員に求められる役割や資質能力を理解する。
3. 教員の職務内容や教員に課せられる義務を理解する。
4. チーム学校への対応の必要性について理解する。

3 教育制度論 FZ-Z-201

Educational Systems

必修 2単位 1年後期

授業の概要：本講義は、教育に関する社会的／制度的事項とその課題について解説する。各授業では、教育制度に関する基礎的な知識や教育政策の動向について、関連資料の読解やグループワークを通して、理解を深める。その中には、現代の学校において必要不可欠な地域との連携及び学校安全への対応も含まれる。最後には、教育の動向に関するテーマを各自が設定し、それについてのレポートの作成と、授業内での発表を行う。

授業の達成目標：1. 教育に関する社会的／制度的事項についての基礎知識を修得する。
2. 教育に関する社会的／制度的事項に関する事例を、基礎知識を基に客観的に理解する。
3. 教育に関する社会的／制度的事項の課題を見つけ、必要な対応について考える。

5 教育課程論 FZ-Z-301

Curriculum Theory

必修 2単位 2年前期

授業の概要：本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を修得する。

授業の達成目標：1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。
2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。
3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

2 教育心理学 FZ-Z-102

Educational Psychology

必修 2単位 1年前期・集中

授業の概要：発達と学習の領域を中心に、子どもたちの教育を考える上で必要となる心理学の知見を解説する。また、教育現場への応用を念頭に置きながら、具体的な教育場面と関連づけて問題を提示していく。

授業の達成目標：1. 発達と学習に関する概念及び基礎理論を理解し、教育実践の場で応用できる力を養う。
2. 生涯発達の観点から、各段階での特徴、発達課題、発達過程に及ぼす要因、認知発達等の具体的内容について理解する。
3. 主体的学習、学習意欲、学習評価のあり方について、発達を踏まえた学習を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

4 特別支援教育 FZ-Z-202

Special Needs Education

必修 1単位 1年後期・集中

授業の概要：我が国におけるインクルーシブ教育システムと様々な教育的ニーズのある生徒を支援する方法について、できる限り具体的な事例に即して講述する。

授業の達成目標：1. 共生社会の実現に向けた基盤をなすという特別支援教育の大きな目標を理解する。
2. 特別の支援を必要とする生徒の特性及び心身の発達を理解し、そのための教育課程や支援の方法を理解する。
3. 特別の教育的ニーズのある生徒への対応を理解する。

6 教育原理 FZ-Z-302

Principles of Education

必修 2単位 2年前期・集中

授業の概要：教育の理念とその歴史的な成り立ちについて講ずる。人間にとっての教育の不可欠性、人間形成全体における学校教育の位置、学校教育の歴史的成り立ち、日本の学校教育の歴史的な特質やその今日的課題について講ずる。

授業の達成目標：1. 人間がなぜ教育を必要としているのか、人間形成全体における教育の位置、教育の目的や目標に関する考え方等の教育の基本的概念や思想を理解する。
2. 学校教育の成り立ちと国家や社会との関係等の教育の歴史を理解する。

7 生徒・進路指導論 FZ-Z-303

Student and Career Guidance

必修 2単位 2年前期

授業の概要：学校における生徒指導及び進路指導の意義や課題を正しく、切実なものとしてとらえるためには、現実的な視点が大切である。授業では多くの具体的な課題を取り上げ、考えることや実感する場面を設定し、小レポートを課す。また、青年期にある自らの内面を過去から現在にわたって振り返りながら学ぶ。

授業の達成目標：1. 生徒指導及び進路指導の意義や原理を理解する。
2. 生徒指導及び進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。
3. 個別課題を抱える生徒への生徒指導及び進路指導のあり方を理解する。

9 教育相談 FZ-Z-402

School Counseling

必修 2単位 2年後期・集中

授業の概要：教育相談に必要な態度・姿勢・技法を習得するため、カウンセリングに関する理論、基礎知識、具体的な対応方法を、不適応の事例を紹介しながら概観していく。スクールカウンセラー等の専門家の職務の実際や、関係者との連携のあり方など、学校現場の実際場面を想定した内容を提示していく。

授業の達成目標：1. 学校教育における教育相談の概要について理解する。
2. 児童生徒の問題行動や不適応行動の概要とそれらの行動に気づくための視点を習得する。
3. 教育相談の具体的な進め方を学び、校内外の関係者との連携のあり方を理解する。

11 教育実習 FZ-Z-701

Teaching Practice

必修 2単位 4年前期・集中

授業の概要：実習校の教員による講話を受講し、学校の課題と生徒の実態、学校運営の在り方などについて理解する。授業参観と教材研究を通して、授業の在り方を学び、実践のための指導案を作成し、授業の準備をする。授業実践を行い、学習指導の実際について学ぶ。授業後の反省を担当教員の指導助言のもとに行い、授業力の向上に生かす。

授業の達成目標：1. 教育実習生としての基本的な態度や教職員等との適切な関わり方ができること。
2. 指導案を作成し、生徒への教科・科目・単元のねらいを踏まえた適切な学習指導ができること。
3. 生徒の発達段階に応じた適切な生徒指導ができること。
4. 授業観察や教材研究、授業実施後の反省を適切に行うことができること。

8 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 FZ-Z-401

Methods of Extra-Curricular Activities and Periods of Integrated Studies

必修 2単位 2年後期

授業の概要：特別活動の意義と目標・内容及び課題について解説するとともに、学生が自己の経験を振り返りながら考察する機会を確保する。また、総合的な学習の時間の意義や指導計画の作成、具体的な指導の仕方、評価等について解説する。いずれもグループワーク等の集団活動の場を設定し、実践的に学ぶことができるようにする。

授業の達成目標：1. 特別活動の意義を理解し、その特質を踏まえた指導の在り方を理解する。
2. 総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。
3. 総合的な学習の時間の指導計画の作成、指導及び評価の仕方を理解する。

10 教育方法学 FZ-Z-403

Method of Education

必修 2単位 2年後期・集中

授業の概要：授業の組み立て方や指導方法について、学習や指導の理論を中心に学ぶ。そして、その理論を踏まえた学習指導案の作成と授業の中での教員の指導の方法について、実践の視点から学ぶ。また、情報機器を活用した授業やその研究の仕方について体験的に学んでいく。

授業の達成目標：1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
2. 教育の指導技術を理解し、身に付ける。
3. 情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

12 教育実習事前・事後指導 FZ-Z-702

Pre and Post Guidance for Teaching Practice

必修 1単位 4年前期・集中

授業の概要：3年前期から4年前・後期にかけて実施する。3年次後期には教育実習の意義と目的の理解と授業実践に向けた指導案の作成と模擬授業を行う。また、学校現場での一日体験実習では、授業観察や授業実践、現職教員の講話を通して、教育実習に向けた意識と技術の向上を目指す。4年次には、教育実習直前の指導と直後の振り返りのための指導を行う。

授業の達成目標：事前指導では、教育実習に臨む上で必要となる事柄の理解（教育実習の目的と内容等）、実習生にふさわしい心構えと態度の育成、学習指導と生活指導に関する指導技術の基礎的能力の向上を目指す。事後指導では、教育実習での経験を振り返り、成果と課題を確認する。

13 教職実践演習（高） FZ-Z-801

Practical Seminar for Teaching Profession

必修 2単位 4年後期・集中

授業の概要：教科及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認する。「教職のための学習ポートフォリオ」に基づいた学修の振り返りによって、4つの事項（①使命感等②社会性等 ③生徒理解等 ④教科指導力等に関する事項）に関して、個別の課題を明確にし、その克服を目指す。その方法として、講義の他にグループ討論や模擬授業、学校現場の見学・調査などを行う。実施に当たっては、高校や教育委員会との連携を密にするとともに、専門教科担当者を含めた指導体制の下で指導し、評価を行う。

授業の達成目標：学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、教育現場において必要とされる実践的能力となっていることを確認し定着させる。以下の諸点にとくに留意する。

1. 自らの専門的課題を自覚した上で、教科に関する知識と技能を充実させる。
2. 教職に関する知識と指導技術を向上させる。
3. 社会性や人間性を豊かにし、使命感と教育愛・教育的情熱をもって教育に取り組もうとする態度を身に着ける。

15 工業科教育法B EACSZ-Z-601

Teaching Method of Engineering B

必修 2単位 3年後期

授業の概要：高等学校における職業教育は多様であり、工業分野も産業構造の変化に伴い多様化している。講義では、工業分野に従事する工業人を育成するに相応しい教員の育成を目指し、授業法や評価について講義する。更には学習指導案の作成と模擬授業を通して教員としての実践的態度を育成するとともに、工業教育の動向についてふれ、課題を確認するとともに、工業教育の未来を展望する講義内容とする。

授業の達成目標：1. 工業教育に係る教育方法の知識や指導法を理解する。

2. 実際の教育の場において知識や指導法を適切に適用できるようにする。
3. 学習指導案作成と付随する知識・指導技術が修得できるようにする。

14 工業科教育法A EACSZ-Z-501

Teaching Method of Engineering A

必修 2単位 3年前期

授業の概要：高等学校における職業教育は多様であり、工業分野も産業構造の変化に伴い多様化している。工業分野に従事する技術者を育成する指導者としての使命感を自覚させ、学習指導要領に基づき、工業教育の役割・概要、教育機器の活用等を授業の中心にして、実践的態度の育成を目指す講義内容とする。

授業の達成目標：1. 工業教育に係る教育方法の知識や指導法を理解する。

2. 実際の教育の場において知識や指導法を適切に適用できるようにする。
3. 学習指導案作成と付随する知識・指導技術が修得できるようにする。

教職課程の履修要項

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に基づき、東北工業大学学則第42条、並びに教育職員免許状取得に関する履修規程によって設置された教職課程について、所定の単位を修得しなければならない。

教職を希望する学生は、以下に示す教職課程の履修要項を熟読の上、間違いのないよう十分に注意することが必要である。

I. 本学において取得できる普通免許状の種類および免許教科は次のとおりである。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
高等学校教諭一種免許状	工 業	建 築 学 科

II. 上記の免許状を取得するには、東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

III. 「教育実習」について

教育実習は、教職に携わることを望む学生が、大学の授業を通しては容易に得ることのできない教職の専門性に関する能力、とりわけ教科授業に関する指導法を、直接教育の現場において、生徒に対する具体的な指導を通して理解し、集中的に身につけ、教師になるための素地と自覚を養うことを目的として実施される科目である。教育実習は4年生に課せられており、これまで所定の教職課程の学習を生かして行うものである。

① 教育実習は、次の要件を充足し、履修適格者と認定された者だけが対象となる。

(i) 3年生終了時まで、教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目（4年次開講科目「教育実習事前・事後指導」「教育実習」および「教職実践演習」を除く）をすべて修得しなければならない。

(ii) 次の成績要件を充足しなければならない。

3年生前期終了時の全履修科目の累積GPA値※がおおむね2.50以上であること。（ただし、この値は見直される場合がある）

※GPAについて…

『GPA (Grade Point Average)』とは、成績を5段階で評価した値の平均値であり、以下の式により計算する。なお、詳細については、本学生便覧の152ページを参照すること。

【成績5段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{の修得単位数}) + (3 \times B \text{の修得単位数}) + (2 \times C \text{の修得単位数}) + (1 \times D \text{の修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (Fの科目も含む)}}$$

- ② 上記の履修条件を満たすことのできる見込みの者で、教育実習の履修を希望する者は、3年生の6月までに、教育実習予備登録（実習希望校調査）の手続きをすること。
- ③ 教育実習の実習内諾を得るまでの交渉は本人が行なう。指導教員もしくは総合教育センター（教職担当）に相談すること。
なお、実習内諾を得るための高校訪問は、高校に連絡のうえ、できるだけ3年生の早い時期とする。詳細は次頁教職課程年間スケジュールで確認すること。
- ④ 教育実習は、都道府県教育委員会、当該高等学校の協力を得て行わなければならない。当初の予定を変更すると、これら関係機関に多大の迷惑をかけることになるので、実習申込み後の自己の都合や履修状況による実習辞退は極力回避するよう努めること。万が一、予定を変更せざるをえない事態が発生した際には、総合教育センター（教職担当）に直ちに相談すること。

IV. 教育職員免許状の申請手続きと授与

教育実習を修了し、取得しようとする免許種の必要単位を充足し、免許状の出願をすることによって、卒業時に免許状が授与される。

教育職員免許状の申請手続きについては、別途、教務学生課より案内をする。

《教職課程年間スケジュール》

実施時期	説明会および手続き	対象学年
4月上旬	オリエンテーション (教職課程の説明…所属学科・総合教育センター(教職担当))	1学年
	履修登録	全学年
4月中旬	教育実習ガイダンス, 事前指導	4学年
4月中旬 ～5月	次年度実習希望者は, 実習希望校を訪問し, 内諾を得る	3学年
5月上旬 ～10月下旬	教育実習(2週間または3週間)	4学年
5月上旬 ～6月上旬	次年度教育実習履修希望者および教育実習希望高校調査	3学年
6月中旬 ～7月下旬	次年度教育実習希望者に対し, 実習希望校への本学からの依頼状交付	3学年
9月下旬～ 10月上旬	履修登録	全学年
11月～	教職課程のための学習ポートフォリオの作成	1～4学年
12月上旬	教育職員免許状申請書類を教務学生課に提出	4学年
3月初旬	免許状申請書類を教務学生課にてとりまとめの上, 一括して, 宮城県教育委員会に提出	4学年
3月中旬	教育職員免許状交付	4学年
3月下旬	教育実習履修者決定	3学年

* 諸行事への欠席, あるいは提出書類が遅れる場合は, 必ず事前に教務学生課あるいは総合教育センター(教職担当)に申し出て指示を受けること。

V. 教職に関する相談について

教職に関する事務的事項については教務学生課および総合教育センター（教職担当）が行い、学生に対する諸連絡は学内掲示板及びポータルサイトにおいて指示するので常時注意すること。

教育職員免許状の取得、教育実習、その他教職に関する相談については、教職科目担当教員が、随時対応する。

VI. 教育職員免許法・同法施行規則改正に伴う注意事項

教育職員免許法・同法施行規則の改正に伴い、2019年度入学生より改正後の新法が適用されています。

2018年度以前入学生については旧法（平成10年改正法）が適用されますが、経過措置として、下記の通り読み替えをおこないます。

旧法に基づく科目名	開講期	単位数		新法に基づく科目名	開講期	単位数
教職概論	1年前期	2	→	教職概論	1年前期	2
教育原理	2年前期	2	→	教育原理	2年前期	2
教育心理学	1年後期	2	→	教育心理学	1年前期	2
教育制度論	1年後期	2	→	教育制度論	1年後期	2
教育課程論	2年前期	2	→	教育課程論	2年前期	2
工業科教育法A（「工業」免許必修）	3年前期	2	→	工業科教育法A（「工業」免許必修）	3年前期	2
工業科教育法B（「工業」免許必修）	3年後期	2	→	工業科教育法B（「工業」免許必修）	3年後期	2
情報科教育法A（「情報」免許必修）	3年前期	2	→	情報科教育法A（「情報」免許必修）	3年前期	2
情報科教育法B（「情報」免許必修）	3年後期	2	→	情報科教育法B（「情報」免許必修）	3年後期	2
商業科教育法A（「商業」免許必修）	3年前期	2	→	商業科教育法A（「商業」免許必修）	3年前期	2
商業科教育法B（「商業」免許必修）	3年後期	2	→	商業科教育法B（「商業」免許必修）	3年後期	2
特別活動の指導	2年後期	1	→	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2年後期	2
教育方法学	2年後期	2	→	教育方法学	2年後期	2
生徒・進路指導論	2年前期	2	→	生徒・進路指導論	2年前期	2
教育相談	2年後期	2	→	教育相談	2年後期	2
教職実践演習（高）	4年後期	2	→	教職実践演習（高）	4年後期	2
教育実習	4年前期	2	→	教育実習	4年前期	2
教育実習事前・事後指導	4年前期	1	→	教育実習事前・事後指導	4年前期	1
			新設	特別支援教育	1年後期	1

※科目等履修生についても、新法が適用されます。詳細については、教務学生課へご相談ください。

建築学部

卒業後の取得資格

○ 卒業後の取得資格

※令和2年度以降の入学生については、以下の各資格免除等の申請手続き中ですので、決定次第ポータルサイトにて周知いたします。

大学卒業者の資格試験（国家試験）免除

○技術士補

都市マネジメント学科の教育カリキュラムは、2006年度以降JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、都市マネジメント学科の卒業生は全員、建設部門の修習技術者（国家試験である技術士1次試験の合格者と同等）となる資格を有し、申請により技術士補に登録することができる。2017年度以降入学の都市マネジメント学科の学生は、定期的実施されるJABEE審査の結果により、同様の扱いとなる予定である。また4年間の実務経験を経て技術士2次（技術士）試験の受験が可能である。

（詳細は当該学科へ問合せのこと）

○無線従事者

平成20（2008）年度以降平成28（2016）年度までの入学者で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし、①第三級海上特殊無線技士については、情報通信工学実験Ⅲ、電気通信法規の単位の他、情報コースの学生は電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない、②第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士については、第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他、電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし、①第三級海上特殊無線技士については、情報通信工学実験Ⅲ、電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡ、電気通信法規の単位を修得しなければならない、②第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士については、第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他、電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

○測量士補

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、願い出により測量士補の資格を取得できる。

*詳細は当該学科へ問合せのこと

大学卒業者の資格試験一部免除

○甲種（乙種）火薬類取扱保安責任者

都市マネジメント学科（建設システム工学科）の課程を修め火薬学を修得し卒業した者は甲種、乙種に関係なく、一般火薬学の試験科目が免除される。甲種は1ヶ月1000kg以上、乙種は1ヶ月25kg以上1000kg未満の火薬爆薬取扱に区分される。

○土地家屋調査士

測量士補、建築士の資格を有する者は、第2次試験（平面測量、作図）が免除される。

○電気通信主任技術者

電気電子工学科・情報通信工学科の課程を修め卒業した者のうち指定の科目を修得した学生は、電気通信主任技術者の試験科目（電気通信システム、専門的能力、伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）、法規）のうち、電気通信システムの試験が免除される。

・電気電子工学科

平成20（2008）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、マルチメディア情報通信、通信システムの単位を修得しなければならない。

平成24（2012）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、電気回路Ⅳ、マルチメディアシステム、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

・情報通信工学科

平成20（2008）年度以降平成23（2011）年度までの入学者は、物理学Ⅱ、電磁気学Ⅱ、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅱ、情報理論、アルゴリズムとC言語、情報通信工学実験Ⅲ、電気・電子計測の単位その他、情報コースの学生は電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、物理学Ⅱ、電磁気学Ⅱ、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅱ、情報理論、アルゴリズムとC言語及び同演習、情報通信工学実験Ⅲ、電気・電子計測の単位その他、情報コースの学生は電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、電磁気学Ⅱ、電気・電子計測、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅱ、情報理論、電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

なお、電気電子工学科、情報通信工学科を卒業して事業用電気通信設備の実務経験1年以上であれば同等の免除が受けられる。

※電気通信主任技術者資格の種類はつぎのとおり

1. 伝送交換主任技術者
2. 線路主任技術者

○第一級陸上無線技術士

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者で情報通信工学科の課程を修め平成28年3月以降に卒業した者は、申請により第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし、統計解析、コンピュータ数値解析、コンピュータ数学、物理学Ⅱ、工学基礎物理実験、光通信工学、電磁気学Ⅱ、電気・電子計測、基礎エレクトロニクス、電子回路Ⅱ、電気回路Ⅲ、情報通信工学実験Ⅲの単位その他、情報コースの学生は、電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし、統計解析、コンピュータ数値解析、コンピュータ数学、物理学Ⅱ、工学基礎物理実験、光通信工学、電磁気学Ⅱ、電気・電子計測、電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡ、半導体デバイス、電子回路Ⅱ、電気回路Ⅲ、情報通信工学実験Ⅲの単位を修得しなければならない。

大学卒業で受験資格が得られる

○甲種消防設備士

電気電子工学科（電子工学科）、情報通信工学科（通信工学科）、建築学科、都市マネジメント学科（建設システム工学科）での課程を修め卒業した者は甲種の受験資格が得られる。

○商業施設士

建築学科での課程を修め実務に1年以上従事した者は受験資格を取得できる。

一・二級建築士、木造建築士の者は建築一般の科目が免除される。

実務経験がなくても建築学科平成13（2001）年度以降の入学生で指定科目を修得した者、デザイン工学科（工業意匠学科）平成13（2001）年度以降の入学生で必修科目その他、特別課外活動（インターンシップ）、情報化社会の経済等の指定科目を修得した者は学長の推薦により商業施設士補の資格が得られる。

なお、建築学科の指定科目については学科教務委員に確認のこと。

○衛生工学衛生管理者

卒業後、指定する講習場所で、労働基準法、労働安全衛生法等を受講し、修了後に行なわれる修了試験に合格した者は、申請により資格が取得できる。

○二級建築士、木造建築士

平成29年度に入学した建築学科学生については、現在国土交通省に対してカリキュラム改訂に伴う変更届を提出中であり、別途周知を行う。

平成20（2008）年度以前の入学生で、建築学科の卒業生は実務経験なしで受験資格を取得できる。平成21（2009）年度以降の入学生で建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めたものは、実務経験なしで受験資格を取得できる。

○エネルギー管理士

資格の取得方法は、(1) 国家試験に合格する (2) エネルギー管理研修の修了試験に合格するの2種類がある。

ただし、合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に、1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また、エネルギー管理研修を受けるためには、研修申込時まで3年以上の実務経験が必要である。

大学卒業後実務経験で得られる受験資格

○一級建築士

平成29年度に入学した建築学科学生については、現在国土交通省に対してカリキュラム改訂に伴う変更届を提出中であり、別途周知を行う。

平成20(2008)年度以前の入学生で、建築学科の課程を修め卒業後2年以上建築に関する実務に従事した者は一級建築士試験の受験資格を取得できる。平成20(2008)年度以前に大学院に入学した者は、建築学専攻大学院博士前期課程での2年間の学修も実務経験と認められる。

平成21(2009)年度以降の入学生については、建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修め卒業後2年以上建築に関する実務に従事した者は一級建築士試験の受験資格を取得できる。なお、平成21(2009)年度以降に大学院に入学した者は、建築学専攻大学院博士前期課程2年間において指定された科目を履修し、修了することで、1年間の実務経験と認められる。

デザイン工学科(工業意匠学科)卒業生で2年以上、建築に関する実務に従事した者は二級建築士試験の受験資格を取得できる。

○1・2級土木施工管理技士

都市マネジメント学科、建築学科の課程を修めた卒業生で、土木施工管理に関し3年以上の実務に従事した者、又は前記指定学科以外の学科を修めた卒業生で土木施工管理に関し4年6ヶ月以上の実務に従事した者は1級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

前記指定学科と同様1年以上、前記指定学科以外は1年6ヶ月以上あれば、2級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

○1・2級建築施工管理技士

建築学科、都市マネジメント学科での課程を修めたものは、建築施工の実務経験(1級:3年以上、2級:1年以上)により受験資格を得られる。

○電気工事施工管理技術検定、電気通信工事施工管理技術検定

平成20年度以降の入学生で情報通信工学科を卒業した者は、1級電気工事施工管理技術検定試験、1級電気通信工事施工管理技術検定試験の受験に必要な大学卒業後4年6ヶ月以上の実務経験年数が3年に短縮されます。また、2級電気工事施工管理技術検定試験、2級電気通信工事施工管理技術検定試験の受験に必要な大学卒業後1年6ヶ月以上の実務経験年数が1年に短縮されます。

大学卒業後実務経験で得られる資格

○測量士

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、卒業後1年以上測量に関する実務に従事した場合、願い出により測量士の資格を取得できる。

*詳細は当該学科へ問合せのこと

○建築物環境衛生管理技術者

工学系学科を卒業後1年以上の特定建築物の環境衛生維持管理に関する実務に従事した者は厚生労働大臣の指定する講習を受けることにより資格が取得できる。また、2年以上の実務経験を有し国家試験に合格することによって資格を取得できる。

1級建築士の資格を有する者は経験年数不要。

○公害防止管理者

国家試験と技術資格又は学歴及び実務経験により、書類審査を経て一定の講習を受講し、有資格者となる二つの方法がある。

国家試験の受験には学歴、実務経験等の一切の制限はない。

技術資格又は学歴等により講習を受講し有資格者となるためには、大気関係、水質関係、騒音関係、振

動関係のいずれかの資格を有する者か、卒業後、ばい煙発生施設又はばい煙を処理するための施設の維持管理を3年以上経験した者に対して受講の資格が与えられる。

在学中でも得られる資格試験一部免除

○基本情報技術者

電気電子工学科と情報通信工学科は、情報処理推進機構（IPA）の免除対象科目履修講座の認定を受けている。

電気電子工学科の平成29（2017）年度以降の入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡA、およびコンピュータアーキテクチャⅢAを履修の上、IPAから問題提供を受けて本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

情報通信工学科の平成20（2008）年度以降平成23（2011）年度までの入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡ、およびコンピュータアーキテクチャⅢを履修の上、IPAから問題提供を受け本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

情報通信工学科の平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡ、および情報とマネジメントを履修の上、IPAから問題提供を受け本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

情報通信工学科の平成29（2017）年度以降の入学者は、基本情報技術Ⅰ、基本情報技術Ⅱ－AまたはB、および基本情報技術Ⅲ－AまたはBを履修の上、IPAから問題提供を受け本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

この認定を受けた者は、続く1年間、基本情報技術者試験を一部免除（午前の部）で受験することができる。

○工事担任者

情報通信工学科の教育課程において指定の科目を修得した学生は、工事担任者試験の試験科目のうち、「電気通信技術の基礎」の試験が免除される。

平成20（2008）年度以降平成23（2011）年度までの入学者は、数学への旅、物理への旅、解析Ⅰ及び同演習、解析Ⅱ及び同演習、代数幾何概論、電気回路Ⅰ及び同演習、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、電子回路Ⅰ及び同演習、電子回路Ⅱ、論理回路、情報通信工学実験Ⅰ、情報通信工学実験Ⅱ、情報通信工学実験Ⅲ、通信システムⅠ、通信システムⅡ、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、数学への旅、代数・幾何概論、物理への旅、解析演習Ⅰ、解析演習Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、電気回路Ⅰ及び同演習、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅰ及び同演習、電子回路Ⅱ、論理回路、情報通信工学実験Ⅰ、情報通信工学実験Ⅱ、情報通信工学実験Ⅲ、通信システムⅠ、通信システムⅡ、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は、線形代数、解析Ⅰ及び同演習、情報通信の物理基礎、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、電気回路入門、電気回路Ⅰ及び同演習、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅰ及び同演習、電子回路Ⅱ、論理回路、情報通信工学実験Ⅱ、通信システムⅠ、通信システムⅡ、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

○ビオトープ管理士（2級・計画部門）

環境エネルギー学科の教育課程において指定の科目を修得した学生は、ビオトープ管理士（2級、計画部門）の試験科目（択一問題、小論文）のうち、「択一問題」の半分（50問中25問）が免除される。

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、循環型社会形成論、生態学基礎、環境生物学、保全生態学、ヒューマンエコロジー、水環境工学、環境関係法、地域環境調査法、地域環境計画及び同演習の単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は、循環型社会形成論、地球環境とエコロジー、環境生物学、保全生態学、環境緑化学、水環境工学、環境関係法、地域環境調査法、地域環境計画及び同演習の単位を修得しなければならない。

国際資格「P E」「C E」と「技術士」の相互承認

欧米ではP E（プロフェッショナル・エンジニア）やC E（チャータード・エンジニア）などが一流の技術者資格として認められており、これに対してアジア地域では技術士（日本・韓国）、高級エンジニア（中国）などの資格があります。

これらの技術者資格は語学力や国際性も兼ね備えていることを条件に、A P E Cエンジニア（注）の登録審査を受け、年間50時間以上のC P D（継続研鑽）を受けることを条件に、技術士とP E、C Eなどの資格を相互承認できるようになっています。

日本では技術士を取得してA P E Cエンジニアになるのが一般的ですが、英語が得意な人や外国での生活が長い人などはP Eを取得する方法もあります。（但し登録は米国）

（P E試験はすべて英語で行われ、技術士1次試験と同じレベルのF E（ファンダメンタル・エンジニア）試験に合格してから4年間の実務経験が必要です。）

問合せ先

公益社団法人 日本技術士会 技術士試験センター

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル

TEL (03) 3461-8827 FAX (03) 3461-8829

URL <http://www.engineer.or.jp/>

又は 日本P E・F E試験協議会（J P E C）

〒107-0052 東京都港区赤坂2-15-9 石井第3ビル201

TEL (03) 3583-8781 FAX (03) 6277-7860

E-mail : info@jpec2002.org

（注）APEC エンジニアとは？

企業活動の国際化と共に、技術士も日本国内のみならず広く海外で活躍する機会が増えてきています。APEC（Asia-Pacific Economic Cooperation）エンジニア登録制度は、APEC エンジニア相互承認プロジェクトに基づき、有能な技術者が国境を越えて自由に活動できるようにするための制度です。

APEC エンジニア相互承認プロジェクト

1995年11月に大阪で開催されたAPEC首脳会議において、「APEC域内の発展を促進するためには、技術移転が必要であり、そのためには国境を越えた技術者の移動が不可欠である」旨の決議がなされました。これを受けて、APECの作業部会の1つである人材養成部会内に、APECエンジニア相互承認プロジェクトが設置され、技術者資格相互承認の方法についての検討が、開始されました。

2000年11月1日、APECエンジニアの要件が取りまとめられ「APECエンジニア・マニュアル」として公表されました。これを受け、承認済みの7エコノミー（日本、オーストラリア、カナダ、中国香港、韓国、マレーシア、ニュージーランド）は、APECエンジニアの登録を開始しました。その後インドネシア、フィリピン、米国、タイ、シンガポールおよびチャイニーズ・タイペイ、ロシアが正式加盟し、現在は合計で14エコノミーとなっています。（公益社団法人 日本技術士会ホームページから）

技 術 士

「技術士」とは科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画，研究，設計，分析，試験，評価またはこれらに関する指導の業務を行う者をいいます。技術を習熟（スキルを向上）することではなく，高等の専門的応用能力を備える必要があります。

「技術士」は、「技術士法」^{*1}に基づいて行われる国家試験（「技術士第二次試験」）に合格し，登録した人だけに与えられる称号です。国はこの称号を与えることにより，その人が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定することになります。

一方、「技術士補」は同じく「技術士法」に基づく国家試験（「技術士第一次試験」）に合格し，登録した人だけに与えられる称号です。技術士補は，技術士となるのに必要な技能を修習するため，技術士を補助することになっています。

なお，技術士および技術士補は，技術者倫理を十分に守って業務を行うよう法律によって課されています。また，公益社団法人 日本技術士会で技術士倫理要綱を定めています。

技術士にはコンサルタントとして自営する方，コンサルタント企業及び各種企業に勤務している方がおり，21の技術部門にわたって，高度の専門的応用能力を必要とする事項の計画，設計，評価などを中心とする業務分野で活躍しています。

（日本技術士会 本部および東北本部のHPより一部引用）

都市マネジメント学科は，本学において唯一のJABEE^{*2}認定学科であり，卒業生は全員，技術士第一次試験が免除され修習技術者として認められ，技術士補として登録する資格を有します。そして，最低4年の実務経験を経て技術士第二次試験に合格すれば国家資格である「技術士」の資格が与えられます。

本学卒業生による「工大技術士会」も組織されており，都市マネジメント学科（建設システム工学科，土木工学科）OB・OGを中心とする会員は，高度な専門知識を活用して日本全国で活躍しています。

※1 技術士法（最終改正：平成12年4月26日法律第48号）より抜粋

第1章 総則

（目的）

第1条 この法律は，技術士等の資格を定め，その業務の適正を図り，もって科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「技術士」とは，第32条第1項の登録を受け，技術士の名称を用いて，科学技術（人文科学のみに係るものを除く。以下同じ。）に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画，研究，設計，分析，試験，評価又はこれらに関する指導の業務（他の法律においてその業務を行うことが制限されている業務を除く。）を行う者をいう。

この法律において「技術士補」とは，技術士となるのに必要な技能を修習するため，第32条第2項の登録を受け，技術士補の名称を用いて，前項に規定する業務について技術士を補助する者をいう。

※2 JABEE: 日本技術者教育認定機構

Japan Accreditation Board for Engineering Education / 設立1999年11月19日)は，技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。